

令和 6 年度
神奈川県立総合教育センター研究報告

共に学び共に育つ体育授業の 実現に向けた調査研究

—県立高等学校 2 校の実践を通して—
(3 年間継続研究の 3 年目)

令和 6 年度スポーツ庁委託事業
「令和の日本型学校体育構築支援事業」

神奈川県立総合教育センター
「共に学び共に育つ体育授業の実現に向けた調査研究」チーム

目 次

第1章 研究を進めるにあたって

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究の目的	2
4	研究方法	2

第2章 3年間の取組・理論の研究

1	3年間の取組（概要）	3
2	1年次の取組	
3	2年次の取組	
4	3年次の取組	
5	研究の理論	4

第3章 実践内容

1	研究Aについて	6
	（1）実践研究校の現状と課題	
	（2）授業の概要（指導や支援の工夫、単元指導計画、学習指導案等）	
	（3）成果と課題	
2	研究Bについて	
	（1）実践研究校の現状と課題	
	（2）授業の概要（指導や支援の工夫、単元指導計画、学習指導案等）	
	（3）成果と課題	

第4章 研究のまとめ

[引用・参考文献]	41
-----------	----

[作成協力者等]	
----------	--

第1章 研究を進めるにあたって

1 研究主題

共に学び共に育つ体育授業の実現に向けた調査研究
—県立高等学校2校の実践を通して—

2 主題設定の理由

本県においては、ともに生きる社会(共生社会)の実現に向け、「ともに生きる社会かながわ憲章」や「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例 ～ともに生きる社会を目指して～」の周知に取り組んでいる。また、学校教育においては、様々な課題を抱えた子どもたち一人ひとりのニーズに適切に対応していくことを根幹に据えた「支援教育」に取り組んでおり、その対象は、障がいの有無にかかわらず、すべての子どもたちを対象としている(神奈川県立総合教育センター 2020 p.1)。本研究は、「支援教育」の考え方を基に、共に学び共に育つ体育授業の実現に向けて調査研究を重ねてきた。

令和4年度から県内の高等学校における実態把握と知見収集を行い、令和5年度よりインクルーシブ教育実践推進校である神奈川県立足柄高等学校と肢体に障がいのある生徒が在籍している神奈川県立座間総合高等学校の2校を実践研究校に選定し、当該校において検証授業を実施した。

障がいのある生徒と他の生徒と一緒に運動できる活動を取り入れ、かつすべての生徒が一人ひとりの違いを大切にするといった「共生」の態度や、互いに助け合い教え合おうとする「協力」の態度を育む体育授業の実践を通して、一定の成果をあげることができた。また、生徒だけでなく授業実践者についても、アダプテッドの意識を高めることができたが、一方で、障がいの種類や程度、また指導内容によって一律に支援の方法が決まるわけではないことから、他の領域における指導の方法や支援の方法等を引き続き検討する必要がある、他の領域についても「共に学ぶ」という意識を継続して、体育授業を計画できるかが課題である。

そこで、今年度は、昨年度の成果と課題を踏まえ、ルールや用具、身体活動の方法を個人の状況に応じて作り変えていく「アダプテッド」の考え方や、生徒の状態やレベルに合わせて、一つの活動の中に形を変化させ、連続性のある多様な学びの場を提供し、これらの活動を必要に応じて一連の授業の中で組み合わせて活用することができる「インクルージョン・スペクトラム・モデル」の考え方を参考にし、「球技 ネット型」の指導の方法や支援の方法等を検討し、すべての生徒が共に学び共に育つ体育授業の実現を目指し、研究を進めることとした。

3 研究の目的

高等学校において、共に学び共に育つ体育授業の実現に向け、県立高等学校2校における授業実践を通じて、各校の実態を把握するとともに、具体的な取組の効果について検討を行い、成果と課題を明らかにする。

4 研究方法

(1) 研究期間 令和4年4月～令和7年3月

(2) 研究手順

ア 令和4年度

(ア) 知見収集

(イ) 実態調査(学校見学・情報収集など)

イ 令和5年度

(ア) 授業実践者(実践校)との単元指導計画及び検証方法の検討

(イ) 授業実践、検証

(エ) 提案内容の検討

ウ 令和6年度

(ア) 授業実践者(実践校)との単元指導計画の検討

(イ) 授業実践

(ウ) 研究の報告

※ 本研究は、令和5年度・6年度において、スポーツ庁委託事業「令和の日本型学校体育構築支援事業—障害の有無にかかわらず共に学ぶ体育授業の充実—」の委託を受け、実践研究を実施した。

第2章 3年間の取組・研究の理論

1 3年間の取組（概要）

共に学び共に育つ体育授業の実現

令和6年度

- 実践研究校における授業研究
- 調査研究推進委員会の実施

- 調査研究成果の発信
 - ・調査研究成果報告書の作成
 - ・調査研究発表会の実施
(全国へのオンライン配信含む)

令和5年度

- 実践研究校における授業研究
- 調査研究推進委員会の実施

- 調査研究成果の発信
 - ・調査研究成果報告書の作成
 - ・調査研究発表会の実施
(神奈川県内の高等学校向け)

令和4年度

- 知見収集
 - ・ 学校視察、聞き取り調査

- 実践研究校の選定
 - ・ 県立足柄高等学校
 - ・ 県立座間総合高等学校
- 調査研究アドバイザーの依頼
- スポーツ庁委託事業への応募

2 1年次の取組（令和4年度）

（1）知見収集（学校視察、聞き取り調査）

インクルーシブ教育実践推進校から13校、また肢体に何らかの障がいがあり、介助を必要としている生徒が在籍していると申出のあった学校4校の、全17校の県立高等学校を訪問し、視察及び聞き取りによる調査を行った。

（2）実践研究校の選定

実践研究校については、（1）を実施した学校の中から、課題に対して関心が高く、授業改善に前向きに取り組んでいる次の2校に決定した。

- ① 県立足柄高等学校（インクルーシブ教育実践推進校）
- ② 県立座間総合高等学校（上肢及び下肢に障がいのある生徒が在籍）

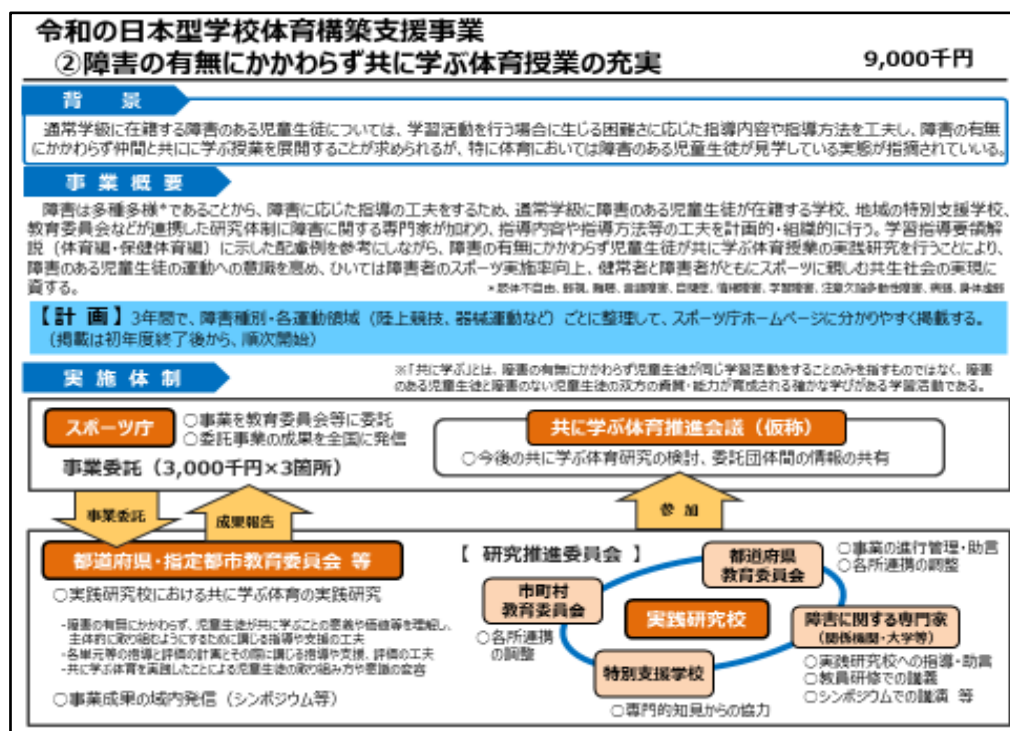
（3）調査研究アドバイザーの依頼

調査研究アドバイザーについては、「アダプテッド体育」に精通しており、当センターの「障がいのある児童生徒のための体育指導研修講座」の講師も依頼している東海大学体育学部の内田匡輔教授と、同じく「アダプテッド体育」に精通している東海大学児童教育学部の綿引清勝特任講師の2名に依頼した。

- ① 東海大学 体育学部 体育学科 内田 匡輔 教授
- ② 東海大学 児童教育学部 児童教育学科 綿引 清勝 特任講師

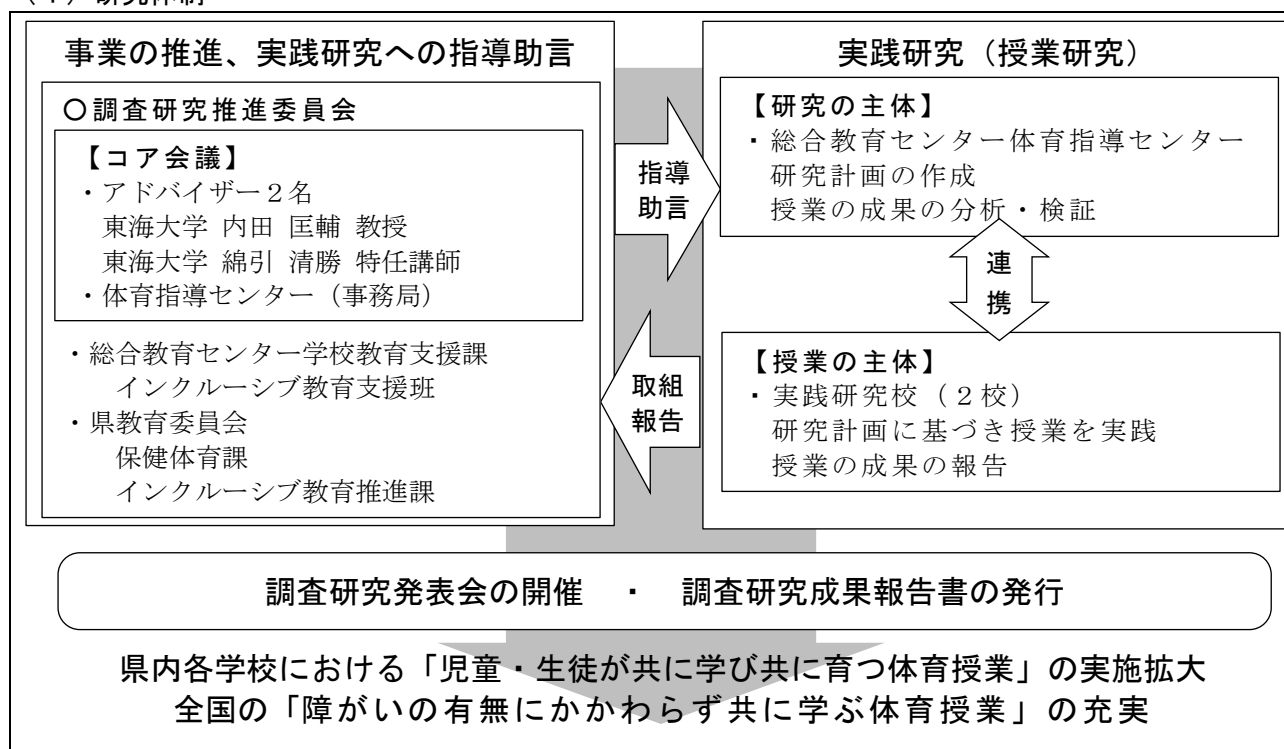
（4）スポーツ庁委託事業への応募

スポーツ庁公募の「令和の日本型学校体育構築支援事業」における「障害の有無にかかわらず共に学ぶ体育授業の充実」というテーマは、本調査研究の内容と密接に関連している。この委託を受けることは、本県のすべての児童・生徒が共に学び共に育つ体育授業の実現に有効に働くとともに、本県の調査研究の成果が全国の「障害の有無にかかわらず共に学ぶ体育授業の充実」に寄与すると考えた。そこで、本事業に応募し、本調査研究は、スポーツ庁の委託事業として取り組むこととした。



3 2年次の取組（令和5年度）

（1）研究体制



（2）事業内容

ア 実践研究校における授業研究

在籍する障がいのある生徒が、他の生徒と共に体育授業を行う県立高等学校2校を実践研究校に指定し、体育授業における生徒の困難さに対応し、すべての生徒が共に学び共に育つ体育授業について、調査研究を行った。

イ 調査研究推進委員会の実施

本調査研究の関係者（「3（1）研究体制」参照）からなる調査研究推進委員会を設置し、調査研究全体の事業企画、進行管理、事業検証を行うとともに、実践研究の成果を確認し、実践研究校の取組に対して指導助言を行った。

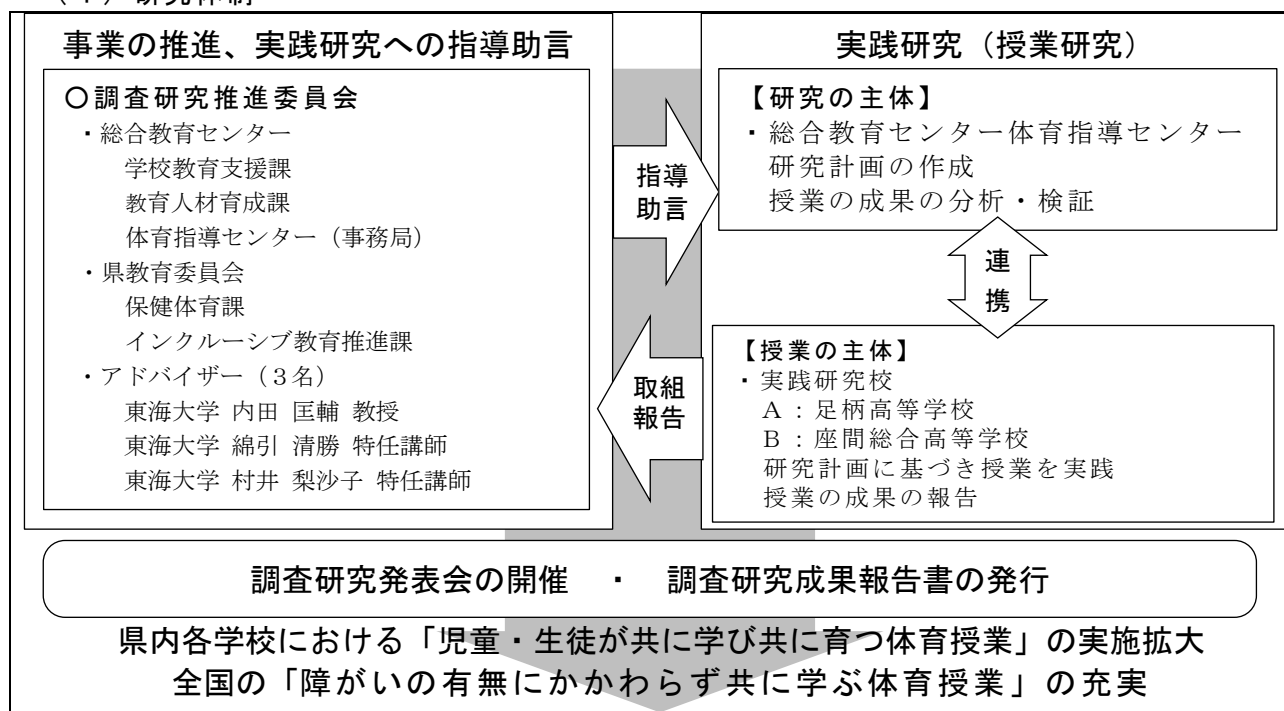
また、調査研究に関連する県内外の実践事例や全国的な実態・現状について情報を収集し、委員会内で共有するとともに、本事業の参考とした。

ウ 調査研究成果の発信

実践研究校での調査研究の成果を発表・報告するため、調査研究発表会の実施や調査研究成果報告書の作成を行った。

4 3年次の取組（令和6年度）

（１）研究体制



（２）事業内容

ア 実践研究校における授業研究

在籍する障がいのある生徒が、他の生徒と共に体育授業を行う県立高等学校2校を実践研究校に指定し、体育授業における生徒の困難さに対応し、すべての生徒が共に学び共に育つ体育授業について、以下の理論を用いた授業に取り組むことを主軸とした調査研究を行った。

- ・ 生徒の障がい等の状況に応じて、運動の行い方等を作り変えていく「アダプテッド」
- ・ 個人の特性、運動の課題の適正化、環境の調整について考える「エコロジカルモデル」
- ・ 活動内容や課題設定に応じて共に学ぶための活動形態を使い分ける「インクルージョン・スペクトラム・モデル」

イ 調査研究推進委員会の実施

本調査研究の関係者からなる調査研究推進委員会（「4（１）研究体制」参照）を設置し、各会議（コア会議及び全体会議）において、本調査研究全体の企画、進行管理、検証を行うとともに、授業研究の成果や課題を確認し、実践研究校に対して指導助言を行った。

令和6年度より新たな調査研究アドバイザーとして、体育科教育学を専門とされている東海大学体育学部の村井梨沙子特任講師にも依頼し、3名の調査研究アドバイザーより助言をいただいた。

また、調査研究に関連する県内外の実践事例や全国的な実態・現状について情報を収集し、調査研究推進委員会の各会議等で共有するとともに、本事業の参考とした。

ウ 調査研究成果の発信

実践研究校での調査研究の成果を広く啓発するため、総合教育センターの研修事業と連携した取組報告、調査研究発表会の実施や調査研究成果報告書の作成・送付を行った。

(3) 実施日程

5 月	○単元指導計画の検討
6 月	
7 月	○実践研究校研修会
8 月	○研究授業開始（足柄高等学校） ○第 1 回調査研究推進委員会
9 月	○研究授業（足柄高等学校・座間総合高等学校） ○第 2 回調査研究推進委員会 ○第 3 回調査研究推進委員会・授業研究会（足柄高等学校）
10 月	○研究授業（足柄高等学校・座間総合高等学校） ○第 4 回調査研究推進委員会・授業研究会（座間総合高等学校）
11 月	○調査研究成果報告書作成
12 月	
1 月	
2 月	○調査研究発表会
3 月	○調査研究成果報告書完成

5 研究の理論

(1) アダプテッド

スポーツを、公式ルール等の既存の行い方でしばらず、障がいや体力・技能などが一人ひとり異なっている、すべての子どもが楽しむことができる行い方に変えていく(変更・修正・追加・低減)考え方です。



(2) インクルージョン・スペクトラム・モデル

アダプテッドの考え方を中心として、全員で一緒に活動するだけでなく、個別に課題に取り組む活動や、いくつかのグループに分かれて行う活動など、学習の目標や内容、子どもの状況等により、活動の仕方を選んだり、組み合わせたりする考え方です。

オープン Open (一般的方法) 特にアダプテッドすることなく全員が参加できる方法で全員が一緒に行う活動です。ウォームアップやクールダウン、体ほぐしの運動等では、自分たちに合ったレベルや動き方を見付けることができるため、障がいの有無にかかわらず全員が楽しむことができます。	モディファイド Modified (微修正) 全員が参加できるように変更を加える方法です。空間、課題、用具、人等を活用して、全員が同じ教材の中で、異なった能力に応じた支援とチャレンジの機会を提供します。このような変更を行うことで、公正にプレイすることができます。
パラレル Parallel (並行指導) 能力やスキルに応じてグループを分ける方法です。運動能力に従ってグループ化し、各グループで同じ活動内容を実施して、各グループに適した技能レベルで行います。従って、同じ活動の二つ以上のバージョンを作成する必要があります。	セパレート Separate (個別対応) 子どもの状況等に応じて課題等を個別に用意する方法です。グループへの参加を容易にするために、個人が一時的に特定の運動技能に取り組めます。また、障がいの内容等から要求される課題が困難な場合は代替りの課題を設定して実施します。

(松原 2021)

本研究では、「アダプテッド」や「インクルージョン・スペクトラム・モデル」の考え方をいかした単元指導計画を作成し、すべての生徒が一人ひとりの違いを大切に、互いに助け合い教え合いながら、生徒がルールや用具、活動内容を工夫して、誰もが運動を楽しむことができる体育授業を実現することができた。「共に学び共に育つ体育授業の実現」に向けて

第3章 研究内容（検証授業）

1 研究Aについて

【実践研究校：神奈川県立足柄高等学校】

（1）実践研究校の現状と課題

全日制課程の普通科で学校規模は 21 学級の県立学校である。インクルーシブ教育実践推進校として、「すべての生徒が共に学び、相互理解を深める教育の推進」、「共生社会の実現に貢献する人材の育成」、「これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動の充実」をスクールミッションとして掲げている。

本研究での対象生徒は、特別募集枠（インクルーシブ教育実践推進校特別募集枠）で入学した生徒 4 名である。本校は、特別募集枠で入学した生徒については、それぞれの生徒に対し個別指導計画が作成され、計画に沿って同じ場で同じ活動をする授業を実施しているが、障がいのある生徒が、仲間とのコミュニケーションをとる際や運動の技能を習得する際に感じる困難さを解消することについては、課題があった。

昨年度、「球技 ゴール型（サッカー）」において、「共生」の視点を重視し、学習内容の理解や仲間とコミュニケーションが難しい生徒が共に学ぶことができる体育授業を実践した。

学習内容の示し方や生徒同士の話合いの仕方などを工夫したことにより、障がいの有無にかかわらず全ての生徒が、分かりやすく仲間と関わりやすい授業を行うことができたが、障がいのある生徒は、教師の助言やチームの仲間の意見のままに活動する状況が見られ、自己の状況に応じた活動を自ら考えて決めることができるようにすることが課題として残った。

そこで本研究では、昨年度の成果と課題を踏まえ、「球技 ネット型（テニス）」において、引き続き全ての生徒が分かりやすく仲間と関わりやすい工夫を行いながら、一人ひとりが自己の状況に応じた活動を自ら考えて決めたり、考えたり決めたりしたことを自ら伝えて話し合ったりすることで、誰もが自己の考えをもち、相手の考えを認めて運動に取り組むことができる体育授業の実現を目指すこととした。

（2）授業の概要（指導や支援の工夫、単元指導計画、学習指導案等）

【指導や支援の工夫】

本研究においては、障がいの有無にかかわらず、誰もが自己の考えをもち、相手の考えを認めて運動に取り組むことができるよう、以下のような学習活動を学習のねらいや内容に合わせて配置して実践することとした。

○「自己の考えを伝えたり相手の考えを認めたりして話し合う活動」

誰もが自己の考えをもち、仲間と関わる中で考えを伝えたり相手の考えを認めたりしながら練習方法や作戦を決めることができるよう、「話し合いカード」や「作戦カード」を用いて話し合う活動を取り入れた。

○「学習の課題が技能のポイントを理解して、課題解決に取り組む活動」

誰もが学習の課題や技能のポイントを理解して学習活動に取り組めるよう、ホワイトボードやフラットマーカー等を用いて生徒が視覚的に捉えやすいようにし、課題解決に向けた練習や作戦に応じた練習に取り組めるようにした。

【単元指導計画、学習指導案等】

ア 単 元 ネット型（テニス）
 イ 内容のまとまり E 球技
 ウ 対 象 2年次（入学年次の次の年次以降）男子8名、女子17名 計25名
 エ 期 間 令和6年9月2日（月）から10月31日（木）
 オ 場 所 テニスコート 等
 カ 単元の目標

【知識及び技能】

次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、（体力の高め方）、課題解決の方法、（競技会の仕方）（など）を理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。

イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

（球技に主体的に取り組むとともに、）（フェアなプレイを大切にしようとする、）合意形成に貢献しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、（互いに助け合い高め合おうとすることなどや、）健康・安全を確保することができるようにする。

キ 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①テニスの局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて、言ったり書き出したりしている。	①仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。 ②チームの作戦に応じた守備位置から、打ち返すことができる。 ③ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。	①体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。 ②チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案している。	①作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。 ②一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。 ③危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。

クー 1 指導と評価の計画（1時間目から7時間目）

時間		1	2	3	4	5	6	7
		一人ひとりの違いを理解し、ゲームを楽しもう						
学習過程	0	健康観察 オリエンテーション 態度②：共生 乱打・ラリー 態度③： 健康・安全	健康観察、本時の学習内容の確認、準備運動					
	10		活動1 基本の動作 ●フォアハンドストローク ●バックハンドストローク	活動1 主運動につながる運動 ●ボレーボレー ●ショート乱打	活動1 課題練習 ●手投げ1本打ち ●ボレーボレー ●ショート乱打 個人やチームの課題を話し合い、練習を選択			
	20		技①：ボール操作					
	30		活動2 課題練習 ●1本打ち ●手投げ1本打ち ●1本打ちゲーム 配点方法を工夫して、ゲームを実践	活動2 基本の動作 ●サービス ●レシーブ 技①： ボール操作	活動2 課題練習 ●乱打 ●ラリー	活動2 シングルスゲーム ダブルスゲーム ●ラリーゲーム サービスの位置を選んだり、配点方法を工夫したりして、ゲームを実践		
	40		整理運動、健康観察、本時の振り返り（学習カード記入）、次時の確認					
	50							
評価機会	時間	1	2	3	4	5	6	7
	知							
	技							①
	思							
	態	③						②

クー 2 指導と評価の計画（8 時間目から 14 時間目）

時間		8	9	10	11	12	13	14
		チームで攻防を楽しむための作戦を考え、ゲームを楽しもう						
学習過程	0	健康観察、本時の学習内容の確認、準備運動						
	10							
	20	活動 1 主運動につながる運動 ●ショート乱打ゲーム コートを広めたり、配点方法を工夫したりして、ゲームを実践	活動 1 ゲーム記録用紙の説明	活動 1 チームの作戦に応じた練習 ●チーム 4 人による作戦の話合い ●ペア練習 個人やチームの強みを共有し、作戦に応じた練習を選択 思②:提案 態度①:参画				
	30	活動 2 展開練習 ●サーブ⇒レシーブ⇒ボレー チームの実態に応じてダブルスにおける展開練習を選択 技③:ボール操作 知①:行い方 技②:ボール操作	活動 2 ダブルスゲーム ●全 6 チームによるリーグ戦 個人のプレイする範囲を狭めたり、サービスの位置を選んだりして、ゲームを実施 思①:調整の仕方	学習のまとめ				
	40							
	50	整理運動、健康観察、本時の振り返り（学習カード記入）、次時の確認						
評価機会	時間	8	9	10	11	12	13	14
	知	①						総括的な評価
	技		③	②				
	思				①		②	
	態					①		

ケ 学習指導案

【本時の展開（14 時間扱いの 1 時間目）】

①本時の目標

- (1) 仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保することができるようにする。

②本時の評価

- ・主体的に学習に取り組む態度③：危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (15) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。	
	2 本時の学習に見通しをもつ	○本時の学習のねらいを確認する。	
	【ねらい】皆が楽しいと思えるテニスの学習の進め方を知り、学習の見通しをもとう 安全面に配慮して運動しよう。		
	3 オリエンテーション ・単元の目標について ・単元で行う活動について ・学習の約束について考える	○単元の学習について説明する。	
	【発問】皆がテニスの授業を楽しむためには、どのようなことを大切にして授業に取り組めばよいと思いますか。		
展開 (25) 分	4 「共生」について学ぶ ・「共生」の具体的な姿について考え、発表する。	○技能の程度等に関らず、「皆がテニスの授業を楽しむ」ことを目指すために必要な態度面を考えるよう促す。 ○「共生」の視点を基に仲間の特徴を理解するよう促す。	
	5 グラウンドストロークの練習 ①乱打 ・ストレートやクロスで易しいボールを打ち合う。 ②ラリー ・シングルスでラリーの回数を数える。	○それぞれの練習の行い方について説明する。 ○場をローテーションしながら、様々な仲間と練習を行うことで、一人ひとりの違いに気付かせる。 ○それぞれの練習の様子を観察しながら、生徒の実態把握を行う。	
まとめ (10) 分	6 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 ・グループ内で振り返りを発表し、仲間に伝える。	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。 【評価】主体的に学習に取り組む態度③【観察・学習カード】	
	7 整理運動、健康観察、挨拶		

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・主体的に学習に取り組む態度③：危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。

十分満足	(A)	危険の予測をしながら回避行動をとり、自他の健康・安全を確保している。
おおむね満足できる	(B)	危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。
努力を要する	(C)	危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保する行動ができていない。

【本時の展開（14 時間扱いの 2 時間目）】

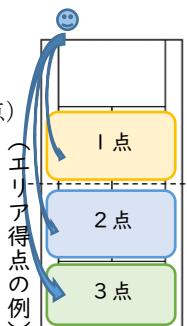
①本時の目標

- (1) 仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができるようにする。

②本時の評価

- ・本時は、評価は行わない。（本時の指導に係る学習評価は 7 時間目に行う）

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ 【ねらい】 テニスの打ち返す技術（フォアハンドストローク）について、理解しよう。 基本的な動作を身に付けるために、仲間と自分に適した練習をしよう。	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
展開 (30) 分	3 基本動作の練習 Open 【フォアハンドストローク】 ・4 人一組でフォームの確認 ・素振り ・ボールキャッチ 4 課題練習 Modified ・1 本打ち ・手投げ 1 本打ち ・1 本打ちゲーム （1 人 5 回の合計点） 	○フォアハンドストロークの行い方について説明する。 ○1 人がフォームの確認を行う際に、他の 3 人がポイントとなる箇所に立ち、互いの掌をタッチしてフォームの確認をさせる。 ○ICT 機器を活用して、行い方のポイントを視覚的に捉えやすいようにする。 ○「1 本打ちゲーム」はチーム内（4 人組）で競わせるが、各自の技能に応じてエリアの得点を決めさせる。	【人】 ・各グループにテニス経験者や運動技能の高い生徒、コミュニケーション能力が高い生徒を配置する。 【もの】 ・技能緩和のために、数種類のラケットやボールの中から操作しやすいものを選ぶ。 ・手投げ 1 本打ちの際に、ボールをトスする場所の目印として、フラットマーカーを置く。 【ルール】 ・エリア得点は各自で設定することで、技能差があってもぎりぎりの競争を楽しめるよう調整する。
まとめ (10) 分	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 6 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気づきや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・本時は、評価は行わない。（本時の指導に係る学習評価は 7 時間目に行う）

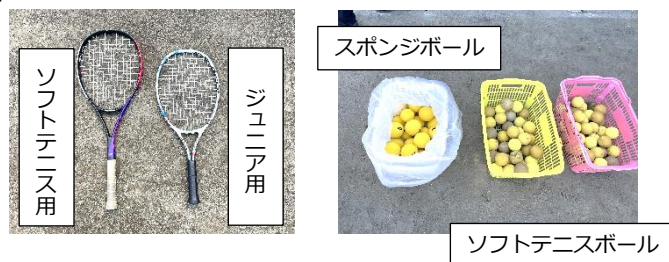
⑤共に学ぶための指導のポイント

【人】



テニス経験者とフォームの確認

【もの】



ラケットとボールの選択は、単元を通して行ったため、3 時間目以降の「本時の展開」では記載を省略する。

【本時の展開（14 時間扱いの 3 時間目）】

①本時の目標

- (1) 仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができるようにする。

②本時の評価

- ・本時は、評価は行わない。（本時の指導に係る学習評価は 7 時間目に行う）

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
	【ねらい】 テニスの打ち返す技術（バックハンドストローク）について、理解しよう。 基本的な動作を身に付けるために、仲間と自分に適した練習をしよう。		
展開 (30) 分	3 基本動作の練習 【バックハンドストローク】 ・ 4 人一組でフォームの確認 ・ 素振り ・ ボールキャッチ 4 課題練習 ・ 1 本打ち ・ 手投げ 1 本打ち ・ 1 本打ちゲーム （1 人 5 回の合計点）	Open ○バックハンドストロークの行い方について説明する。 ○1 人がフォームの確認を行う際に、他の 3 人がポイントとなる箇所に立ち、互いの掌をタッチしてフォームの確認をさせる。 Modified ○ICT 機器を活用して、行い方のポイントを視覚的に捉えやすいようにする。 ○「1 本打ちゲーム」はチーム内（4 人組）で競わせるが、各自の技能に応じてエリアの得点を決めさせる。	【もの】 ・ 足の立ち位置やボールをトスする場所を視覚的に捉えられるように、フラットマーカーを置く。 【ルール】 ・ エリア得点は各自で設定することで、技能差があってもぎりぎりの競争を楽しめるよう調整する。
まとめ (10) 分	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・ 学習カードを記入する。 6 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気づきや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・本時は、評価は行わない。（本時の指導に係る学習評価は 7 時間目に行う）

⑤共に学ぶための指導のポイント

【もの】



フラットマーカーの活用

【ルール】



1 本打ちゲーム

【本時の展開（14 時間扱いの 4 時間目）】

①本時の目標

- (1) 仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとするようにすることができるようにする。

②本時の評価

- ・本時は、評価は行わない。（本時の指導に係る学習評価は 7 時間目に行う）

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ 【ねらい】 仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりしよう。自分に適したサービスの仕方を見付けよう。	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
展開 (30) 分	3 主運動につながる運動 Open 【ボレーボレー】 ・フォアハンドボレー ・バックハンドボレー 【ショート乱打】 4 基本動作の練習 Modified 【サービス】 ・アンダーハンドサービス ・プッシュサービス ・オーバーハンドサービス 【レシーブ】 ・クロスボール ・ストレートロブ	○限られた狭い範囲で「ボレーボレー」と「ショート乱打」を行うことで、ラリーの感覚をつかませる。 ○4 人一組で、相手を交代して行うことで、一人ひとりの違いに応じたプレイを大切にすることを意識させる。 ○自己の課題に応じて、3 つのサービスの中から選んで行わせる。 ○レシーブでは、ボールの落下点に素早く移動し、バックスイングを早めに完了させる。 ○ICT 機器を活用して、行い方のポイントを視覚的に捉えやすいようにする。	【もの】 ・サービスの位置にフラットマーカーを置く。 【人】 ・話し合いカードを活用し、個人の課題をチームで共有する ・サービスは自分の好きな所から打つ。
まとめ (10) 分	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 6 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気づきや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・本時は、評価は行わない。（本時の指導に係る学習評価は 7 時間目に行う）

⑤共に学ぶための指導のポイント

【人】



【もの】 【人】



①本時の目標

- ## ②本時の評価

- ### ③本時の展開

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ### ⑤共に学ぶための指導のポイント

(9月15日)話し合いカード

(名前) 生徒A	(名前) 生徒B	(名前) 生徒C	(名前) 生徒D
① 活動時間	① 活動時間	① 活動時間	① 活動時間
② ヨガハランドストローク	② ヨガハランドストローク	② ヨガハランドストローク	② ヨガハランドストローク
③ ヨガハランドストローク	③ ヨガハランドストローク	③ ヨガハランドストローク	③ ヨガハランドストローク
④ サービス	④ サービス	④ サービス	④ サービス
⑤ レシーブ	⑤ レシーブ	⑤ レシーブ	⑤ レシーブ
⑥ リーズ	⑥ リーズ	⑥ リーズ	⑥ リーズ

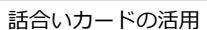
【グループの課題】
 ・ 戦いをする
 ・ 勝ち負けを争う

(名前) 生徒A	(名前) 生徒B	(名前) 生徒C	(名前) 生徒D
① 力の強さを分け	① 力の強さを分け	① 力の強さを分け	① 力の強さを分け
② 力強い	② 力強い	② 力強い	② 力強い
③ 力強いに合わせた動き	③ 力強いに合わせた動き	③ 力強いに合わせた動き	③ 力強いに合わせた動き

【今日の練習メニュー】
 ・ 戦いをする
 ・ 勝ち負けを争う

振り返り(グループで一人ひとりの課題に対する練習の成果を認め合う)

戦いをする 勝ち負けを争う	戦いをする 勝ち負けを争う	戦いをする 勝ち負けを争う	戦いをする 勝ち負けを争う
------------------	------------------	------------------	------------------



【本時の展開（14 時間扱いの 6 時間目）】

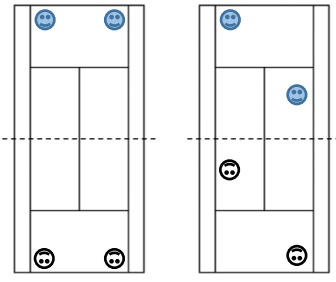
①本時の目標

- (1) 仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができるようにする。

②本時の評価

- ・主体的に学習に取り組む態度②：一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
	【ねらい】グループでの話し合いをもとに、課題練習に取り組もう。 課題練習の成果を発揮して、グループ全員でラリーを続けよう。		
展開 (30) 分	3 課題練習 【手投げ 1 本打ち】 【ボレーボレー】 【ショート乱打】 【乱打】 4 シングルス・ダブルスゲーム 【ラリーゲーム】 ・シングルスやダブルスでラリーの回数を競う。	Parallel ○話し合いカードをもとに、グループの課題に応じて、練習メニューを選ばせる。 ○4 人一組で、相手を交代して行うことで、一人ひとりの違いに応じたプレイを大切にすることを意識させる。 Modified ○グループの課題に応じて、シングルスかダブルスのラリーゲームを選び、さらに「後衛のみ」「前衛と後衛」などのポジションを選んで行わせる。 	【人】 ・話し合いカードを活用し、個人の課題をチームで共有する。 【ルール】 ・コート小さくする。 【もの】 ・サービスの位置にフラットマーカーを置く。 【人】 ・サービスは自分の好きな所から打つ。 【ルール】 ・ラリーの回数だけでなく、加点による配点方法を工夫する。
まとめ (10) 分	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 6 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気づきや考えを取り上げて称賛する。 【評価】 主体的に学習に取り組む態度②【観察・学習カード】	

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・主体的に学習に取り組む態度②：一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。

十分満足	(A)	一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切に、仲間が練習やゲームに参加しやすくなるよう調整をしている。
おおむね満足できる	(B)	一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。
努力を要する	(C)	一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようすることができない。

⑤共に学ぶための指導のポイント

【もの】



フラットマーカーの活用

【ルール】



ラリーゲーム

【本時の展開（14 時間扱いの 7 時間目）】

①本時の目標

- (1) 仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができるようにする。

②本時の評価

- ・知識・技能（技能）①：仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。	
	2 本時の学習に見通しをもつ	○本時の学習のねらいを確認する。	
【ねらい】 仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりしよう。 課題練習の成果を発揮して、グループ全員でラリーを続けよう。			
展開 (30) 分	3 課題練習 【手投げ 1 本打ち】 【ボレーボレー】 【ショート乱打】 【乱打】	○話し合いカードをもとに、グループの課題に応じて、練習メニューを選ばせる。 ○4 人一組で、相手を交代して行うことで、一人ひとりの違いに応じたプレイを大切にすることを意識させる。	【人】 ・話し合いカードを活用し、個人の課題をチームで共有する。 【ルール】 ・コート小さくする。
	4 シングルス・ダブルスゲーム 【ラリーゲーム】 ・シングルスやダブルスでラリーの回数を競う。	○グループの課題に応じて、シングルスかダブルスのラリーゲームを選び、さらに「後衛のみ」「前衛と後衛」などのポジションを選んで行わせる。 評価 知識・技能（技能）①【観察】	【もの】 ・サービスの位置にフラットマーカーを置く。 【人】 ・サービスは自分の好きな所から打つ。 【ルール】 ・ラリーの回数だけではなく、加点による配点方法を工夫する。
まとめ (10) 分	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気づきや考えを取り上げて称賛する。	
	6 整理運動、健康観察、挨拶		

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・知識・技能（技能）①：仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。

十分満足	(A)	仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、相手コートの空間をねらって打ち返したりすることができる。
おおむね満足できる	(B)	仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができる。
努力を要する	(C)	仲間と連動してネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすることができない。

⑤共に学ぶための指導のポイント

【人】



【ルール】



【本時の展開（14 時間扱いの 8 時間目）】

①本時の目標

- (1) テニスの局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があることについて、理解することができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができるようにする。

②本時の評価

- ・知識・技能（知識）①：テニスの局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があることについて、言ったり書き出したりしている。

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
	【ねらい】 テニスの基本的な戦術について、理解しよう。		
展開 (30) 分	3 主運動につながる運動 Modified 【ショート乱打ゲーム】 【ルール】 ・サーブコートで行う。 ・2人がコートに入り、2人は後ろに並び返球した人の後ろに入る。 ・サーブは1本交替 ・アウトは1点、ネットは2点、相手の得点になる。 4 展開練習 Parallel ・サーバー、レシーバー、前衛に分かれてダブルスで行う。 ①A1 サーブ⇒B1 レシーブ（クロスボール）⇒A2 ボレー⇒B2 ②A1 サーブ⇒B1 レシーブ（ストレートロブ）⇒A1⇒B2 ボレー⇒A2	○体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることを意識させる。 ○「ネットは2点」のルールを設けることで、ネットは絶対に自分の得点にならないプレイであることを意識付ける。 ○4人ローテーションで様々なポジションを経験し、チームの特性を捉えさせる。 ○チームの課題に応じて練習方法を選ばせる。	【ルール】 ・コート小さくする。 【もの】 ・フラットマーカを活用して、ポジションを視覚的に捉えられるようにする。 【人】 ・全体指導の場合は、ホワイトボードを活用し、必要な動きや指示に対する言葉について、丁寧に共通理解を図る。
まとめ (10) 分	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 6 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。 評価 知識・技能（知識）①【観察・学習カード】	

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・知識・技能（知識）①：テニスの局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があることについて、言ったり書き出したりしている。

十分満足	(A)	テニスの局面ごとの技術や戦術、作戦の名称があることについて、具体例を示しながら言ったり書き出したりしており、汎用性のある解釈がなされている。
おおむね満足できる	(B)	テニスの局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があることについて、言ったり書き出したりしている。
努力を要する	(C)	テニスの局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があることについて、言ったり書き出したりすることができない。

⑤共に学ぶための指導のポイント

【もの】



フラットマーカの活用

【人】



ホワイトボードを活用した全体指導

【本時の展開（14 時間扱いの 9 時間目）】

①本時の目標

- (1) ラリーの途中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができるようにする。

②本時の評価

- ・知識・技能（技能）③：ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
	【ねらい】 チームの仲間と連動して、テニスの基本的な戦術の動きができるようにしよう。		
展開 (30) 分	3 主運動につながる運動 Modified 【ショート乱打ゲーム】 ※ルールは 8 時間目の本時の展開に記載 4 展開練習 Parallel ・サーバー、レシーバー、前衛に分かれてダブルスで行う。 ①A1 サーブ⇒B1 レシーブ（クロスボール）⇒A2 ボレー⇒B2 ②A1 サーブ⇒B1 レシーブ（ストレートロブ）⇒A1⇒B2 ボレー⇒A2	○体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることを意識させる。 ○「ネットは 2 点」のルールを設けることで、ネットは絶対に自分の得点にならないプレイであることを意識付ける。 ○4 人ローテーションで様々なポジションを経験し、チームの特性を捉えさせる。 ○チームの課題に応じて練習方法を選ばせる 評価 知識・技能（技能）③【観察】	【ルール】 ・コート小さくする。 【もの】 ・フラットマーカーを活用して、ポジションを視覚的に捉えられるようにする。 【人】 ・全体指導の場では、ホワイトボードを活用し、必要な動きや指示に対する言葉について、丁寧に共通理解を図る。
まとめ (10) 分	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 6 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気づきや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・知識・技能（技能）③：ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。

十分満足	(A)	ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動き方を味方へ伝えたり、動いたりすることができる。
おおむね満足できる	(B)	ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。
努力を要する	(C)	ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができない。

⑤共に学ぶための指導のポイント

【ルール】



【もの】



【本時の展開（14 時間扱いの 10 時間目）】

①本時の目標

- (1) チームの作戦に応じた守備位置から、打ち返すことができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保することができるようにする。

②本時の評価

- ・知識・技能（技能）②：チームの作戦に応じた守備位置から、打ち返すことができる。

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。	
	2 本時の学習に見通しをもつ	○本時の学習のねらいを確認する。	
展開 (30) 分	【ねらい】ダブルスゲームの行い方を理解しよう チームの作戦に応じた守備位置から、打ち返すことができるようにしよう。		
	3 ゲームの仕方や記録用紙の使い方を把握する ・ペアの作り方を検討する。	○ペアを作る際には、合意形成するための調整の仕方を意識させる。	
展開 (30) 分	4 ダブルスゲーム ・チーム戦リーグ戦	○相手チームの 2 ポイントパーソンを決めたり、新たなルールを追加したりする際には、勝敗だけにこだわるのではなく、自他チーム共に楽しめるようにするにはどうすべきかを意識させる。	【人】 ・作戦カードを活用し、個人の強みを共有した上で作戦の話合いをする。 ・サーブは 2 本まで打てるようにしたり、自分の好きな所から打てるようにしたりするなど、本人の技能に応じてできることを工夫する。 ・チームの仲間がコート外から動き方を声掛けする。 【ルール】 ・個人のプレイするスペースを固定し、動きやすいスペースを調整する。
	【ルール】 ・各チームと 2 試合ずつのリーグ戦 ・4 人の中でペアを 2 組考えて 2 ゲーム行う ・サーブは一人 2 本交替、10 点マッチ ※チームで作戦を選んでゲームをする ※ゲーム 1 終了後、ゲームを振り返り、選んだ作戦について考えたことを仲間に伝える ※チームで作戦を確認して、ゲーム 2 を行う ★対戦チームの中で、2 ポイントパーソンを一人選ぶ	【評価】技能②【観察】	
まとめ (10) 分	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。	
	6 整理運動、健康観察、挨拶		

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・知識・技能（技能）②：チームの作戦に応じた守備位置から、打ち返すことができる。

十分満足	(A)	チームの作戦に応じた守備位置から、仲間と連携して拾ったりつないだり、相手コートの空間に打ち返したりすることができる。
おおむね満足できる	(B)	チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。
努力を要する	(C)	チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができない。

⑤共に学ぶための指導のポイント

【人】



【本時の展開（14 時間扱いの 11 時間目）】

- ①本時の目標
- (1) チームの作戦に応じた守備位置から、打ち返すことができるようにする。
 - (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
 - (3) 作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとすることができるようにする。
- ②本時の評価
- ・思考・判断・表現①：体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10分)	1 挨拶、健康観察、準備運動	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。	
	2 本時の学習に見通しをもつ	○本時の学習のねらいを確認する。	
	【ねらい】ダブルスゲームの行い方について、皆が楽しめる方法を仲間や対戦相手と相談して決めよう。		
展開 (30分)	3 チームの作戦に応じた練習 ・ボレーボレー ・ショート乱打 ・半面シングルス ・展開練習	○これまでの学習で行ってきた各練習の中から、チームの作戦や課題に応じて、練習を選ばせる。 ○短い時間の中で、効率よく練習ができるように、話し合いの場面では、合意形成するための調整の仕方を意識させる。	【人】 ・作戦カードを活用し、個人の強みを共有した上で作戦の話合いをする。 ・サーブは2本まで打てるようにしたり、自分の好きな所から打てるようにしたりするなど、本人の技能に応じてできることを工夫する。 ・チームの仲間がコート外から動き方を声掛けする。 【ルール】 ・個人のプレイするスペースを固定し、動きやすいスペースを調整する。
	4 ダブルスゲームを行う ・チーム戦リーグ戦 ※ルールは 10 時間目の本時の展開に記載	○相手チームの 2 ポイントパーソンを決めたり、新たなルールを追加したりする際には、勝敗だけにこだわるのではなく、自他チーム共に楽しめるようにするにはどうすべきかを意識させる。	
まとめ (10分)	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。 評価 思考・判断・表現①【学習カード】	
	6 整理運動、健康観察、挨拶		

- ④学習評価の実現状況を判断する目安
- ・思考・判断・表現①：体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。

十分満足	(A)	体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむためのルールや環境などの調整の仕方を見付け提案することができる。
おおむね満足できる	(B)	体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができる。
努力を要する	(C)	体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができない。

⑤共に学ぶための指導のポイント 【人】



【本時の展開（14 時間扱いの 12 時間目）】

①本時の目標

- (1) チームの作戦に応じた守備位置から、打ち返すことができるようにする。
- (2) チームの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案することができるようにする。
- (3) 作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとすることができるようにする。

②本時の評価

- ・主体的に学習に取り組む態度①：作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
	【ねらい】ダブルスゲームの行い方について、皆が楽しめる方法を仲間や対戦相手と相談して決めよう。		
展開 (30) 分	3 チームの作戦に応じた練習 ・ボレーボレー ・ショート乱打 ・半面シングルス ・展開練習 4 ダブルスゲーム ・チーム戦リーグ戦 ※ルールは 10 時間目の本時の展開に記載	○これまでの学習で行ってきた各練習の中から、チームの作戦や課題に応じて、練習を選ばせる。 ○短い時間の中で、効率よく練習ができるように、話し合いの場面では、合意形成するための調整の仕方を意識させる。 【評価】主体的に学習に取り組む態度①【観察・学習カード】 ○相手チームの 2 ポイントパーソンを決めたり、新たなルールを追加したりする際には、勝敗だけにこだわるのではなく、自他チーム共に楽しめるようにするにはどうすべきかを意識させる。	【人】 ・作戦カードを活用し、個人の強みを共有した上で作戦の話し合いをする。 ・サーブは 2 本まで打てるようにしたり、自分の好きな所から打てるようにしたりするなど、本人の技能に応じてできることを工夫する。 ・チームの仲間がコート外から動き方を声掛けする。 【ルール】 ・個人のプレイするスペースを固定し、動きやすいスペースを調整する。
まとめ (10) 分	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 6 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気づきや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・主体的に学習に取り組む態度①：作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。

十分満足	(A)	作戦などを話し合う場面で、仲間の意見を尊重しながら発言するなど、合意形成に貢献しようとしている。
おおむね満足できる	(B)	作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。
努力を要する	(C)	作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようすることができない。

⑤共に学ぶための指導のポイント

【ルール】



【本時の展開（14 時間扱いの 13 時間目）】

①本時の目標

- (1) チームの作戦に応じた守備位置から、打ち返すことができるようにする。
- (2) チームの学習で、状況に応じて自己の役割を提案することができるようにする。
- (3) 作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとすることができるようにする。

②本時の評価

- ・思考・判断・表現②：チームの学習で、状況に応じて自己の役割を提案している。

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
	【ねらい】チームの作戦における、自分の役割を提案しよう。		
展開 (30) 分	3 チームの作戦に応じた練習 ・ボレーボレー ・ショート乱打 ・半面シングルス ・展開練習 Parallel 4 ダブルスゲーム ・チーム戦リーグ戦 Modified ※ルールは 10 時間目の本時の展開に記載	○これまでの学習で行ってきた各練習の中から、チームの作戦や課題に応じて、練習を選ばせる。 ○短い時間の中で、効率よく練習ができるように、話し合いの場面では、合意形成するための調整の仕方を意識させる。 評価 思考・判断・表現②【学習カード】 ○相手チームの 2 ポイントパーソンを決めたり、新たなルールを追加したりする際には、勝敗だけにこだわるのではなく、自他チーム共に楽しめるようにするにはどうすべきかを意識させる。	【人】 ・作戦カードを活用し、個人の強みを共有した上で作戦の話し合いをする。 ・サーブは 2 本まで打てるようにしたり、自分の好きな所から打てるようにしたりするなど、本人の技能に応じてできることを工夫する。 ・チームの仲間がコート外から動き方を声掛けする 【ルール】 ・個人のプレイするスペースを固定し、動きやすいスペースを調整する。
まとめ (10) 分	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 6 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・思考・判断・表現②：チームの学習で、状況に応じて自己の役割を提案している。

十分満足	(A)	チームの学習で、状況に応じてチームの仲間や自己の役割を提案している。
おおむね満足できる	(B)	チームの学習で、状況に応じて自己の役割を提案している。
努力を要する	(C)	チームの学習で、状況に応じて自己の役割を提案していない。

⑤共に学ぶための指導のポイント

【人】



【ルール】



【本時の展開（14 時間扱いの 14 時間目）】

①本時の目標

- (1) チームの作戦に応じた守備位置から、打ち返すことができるようにする。
- (2) チームの学習で、状況に応じて自己の役割を提案することができるようにする。
- (3) 作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとすることができるようにする。

②本時の評価

- ・本時は、総括的な評価の時間となる。

③本時の展開

時間	生徒の学習内容・活動	教師の指導・手立てと評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
	【ねらい】これまでの学習の成果を発揮して、皆でテニスを楽しもう。		
展開 (30) 分	3 チームの作戦に応じた練習 ・ボレーボレー ・ショート乱打 ・半面シングルス ・展開練習 4 ダブルスゲームを行う ・チーム戦リーグ戦 ※ルールは 10 時間目の本時の展開に記載	○これまでの学習で行ってきた各練習の中から、チームの作戦や課題に応じて、練習を選ばせる。 ○短い時間の中で、効率よく練習ができるように、話し合いの場面では、合意形成するための調整の仕方を意識させる。 ○相手チームの 2 ポイントパーソンを決めたり、新たなルールを追加したりする際には、勝敗だけにこだわるのではなく、自他チーム共に楽しめるようにするにはどうすべきかを意識させる。	【人】 ・作戦カードを活用し、個人の強みを共有した上で作戦の話し合いをする。 ・サーブは 2 本まで打てるようにしたり、自分の好きな所から打てるようにしたりするなど、本人の技能に応じてできることを工夫する。 ・チームの仲間がコート外から動き方を声掛けする。 【ルール】 ・個人のプレイするスペースを固定し、動きやすいスペースを調整する。
まとめ (10) 分	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 6 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。	

④共に学ぶための指導のポイント

【人】



作戦カードの活用



サービスの位置

(月 日)話し合いカード

名前

名前

名前

名前

☒	苦手な動き
☐	フォアハンドストローク
☐	バックハンドストローク
☐	ボレー
☐	サービス
☐	レシーブ
☐	ロブ

☒	苦手な動き
☐	フォアハンドストローク
☐	バックハンドストローク
☐	ボレー
☐	サービス
☐	レシーブ
☐	ロブ

☒	苦手な動き
☐	フォアハンドストローク
☐	バックハンドストローク
☐	ボレー
☐	サービス
☐	レシーブ
☐	ロブ

☒	苦手な動き
☐	フォアハンドストローク
☐	バックハンドストローク
☐	ボレー
☐	サービス
☐	レシーブ
☐	ロブ

【グループの課題】

☒	自分の課題
☐	力の強弱の打ち分け
☐	正確性
☐	ボールに合わせた動き

☒	自分の課題
☐	力の強弱の打ち分け
☐	正確性
☐	ボールに合わせた動き

☒	自分の課題
☐	力の強弱の打ち分け
☐	正確性
☐	ボールに合わせた動き

☒	自分の課題
☐	力の強弱の打ち分け
☐	正確性
☐	ボールに合わせた動き

【今日の練習メニュー】

ふり回り(グループで一人ひとりの課題に対する練習の成果を認め合おう！)

(月 日) 作戦カード

- ①A チームと B チームのダブルスのペアを決める。
- ②グループでチームごとのポジション、作戦、発揮したい動きを話し合う。
- ③作戦や発揮したい動きに応じた練習をする。
- ④ゲームをする。
- ⑤グループでふり返しをする。(一人ひとりの頑張りを良さを認め合おう！)

A チーム

B チーム

名前

名前

名前

名前

☒	ゲームで発揮したい動き
☐	フォアハンドストローク
☐	バックハンドストローク
☐	ボレー
☐	サービス
☐	レシーブ
☐	ロブ
☐	【その他の動き】

☒	ゲームで発揮したい動き
☐	フォアハンドストローク
☐	バックハンドストローク
☐	ボレー
☐	サービス
☐	レシーブ
☐	ロブ
☐	【その他の動き】

☒	ゲームで発揮したい動き
☐	フォアハンドストローク
☐	バックハンドストローク
☐	ボレー
☐	サービス
☐	レシーブ
☐	ロブ
☐	【その他の動き】

☒	ゲームで発揮したい動き
☐	フォアハンドストローク
☐	バックハンドストローク
☐	ボレー
☐	サービス
☐	レシーブ
☐	ロブ
☐	【その他の動き】

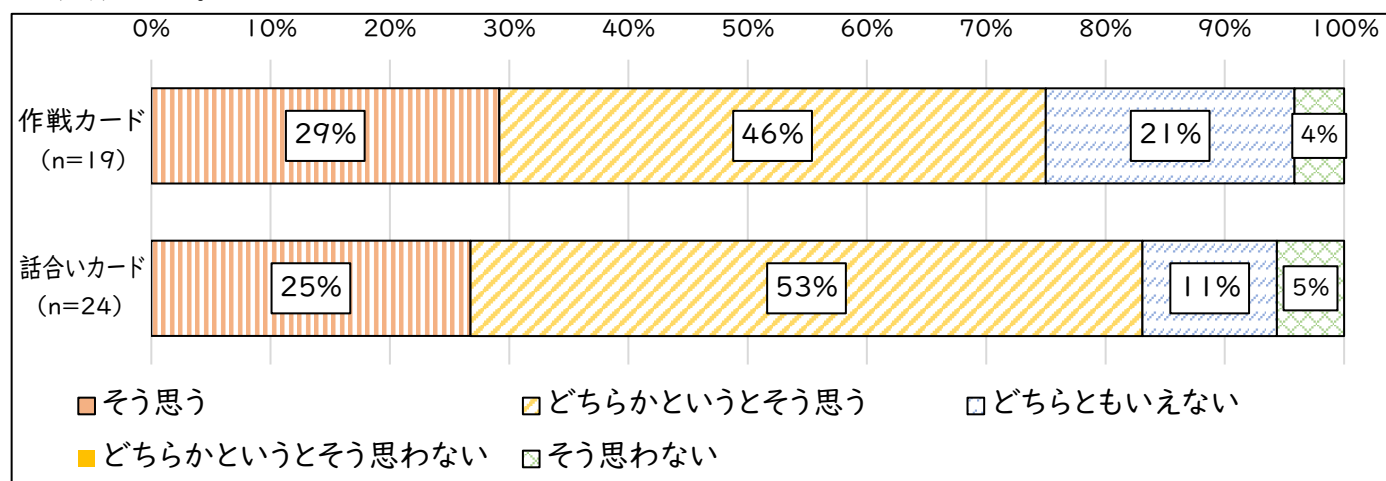
作戦や発揮したい動きに応じた練習 & ダブルスゲーム

ふり返し(グループでチームの作戦や、一人ひとりの発揮したい動きに対するゲームでの成果を認め合おう！)

--	--	--	--

(3) 成果と課題

アンケート調査の「『話し合いカード（作戦カード）』を使ったグループ活動は、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にする（共生）ために役立ちましたか」という質問（5件法）に対するそれぞれの回答割合である。



「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた肯定群は、「作戦カード」については75%、「話し合いカード」については78%であった。この質問に肯定的な回答をした生徒の回答理由には、「一人ひとりの得意・不得意が分かるから、アドバイスしやすいし、アドバイスをもらいやすく、話すきっかけも増えてチームの仲が深まった」や「仲間とのコミュニケーションが増え、自分では気付かなかった自分のよかったところを知ることができた」といった記載があった。また、障がいのある生徒は、回答理由に「一人ひとり違いがよくわかった」や「自分のできない所、改善すべき点、よくなった所などを客観的に見てもらえた」などの記載をしたことから、「話し合いカード」や「作戦カード」は考えを伝えるだけでなく、相手のことを知り認めることに有効であったと考えられる。

また、「一人ひとりが意識することが明確になって、プレイの上達に役立つシステムだと感じた」や「個人の苦手な部分があったことで、グループ全体で一人ひとりにあった練習を考えられた」といった記載もあったことから、チーム内で互いを知り認めることができたことがチームの課題やねらいを明確にし、チームの活動を決定することにつながったことが分かった。

昨年度の成果と課題を踏まえ取り組んだ本研究は、誰もが分かりやすく仲間と関わりやすい工夫を講じたことにより、生徒が自己の状況に応じた活動を自ら考えて決め、伝えることができ、チームで相手の考えを認めながら話し合う活動を通して、一人ひとりの違いを大切にするといった「共生」の態度を育むことができたと考えられる。また、授業実践を通して活用した「話し合いカード」や「作戦カード」は、仲間と関わりやすくするためには大変役立ち、今後の授業改善につながる教材であったと考える。

学習内容の理解の難しさについては、知識の伝え方や技能のポイントを分かりやすく視覚的に捉えやすく工夫して伝えることが効果的であったが、より複雑な知識・技能を伝える方法については、今後も研究する必要がある。仲間とコミュニケーションが難しい生徒については、「話し合いカード」や「作戦カード」が話し合いに加わりやすく決めたことを伝えやすい工夫として効果的であったが、互いに伝えた考えを深め合うような話し合いを支援する方法や教材については、今後も研究を進めたい。

2 研究Bについて

【実践研究校：神奈川県立座間総合高等学校】

(1) 実践研究校の現状と課題

単位制による全日制の総合学科で19学級規模（令和6年度）の県立学校である。教育目標として、「多文化共生」「多文化共生社会を担う人材の育成」を学校として掲げており、在県外国人等特別募集で入学した生徒が各学年に20名程度在籍し、その生徒以外にも外国につながるのある生徒が学校全体として60名弱在籍している。また2年に一名程度の割合で、車いすを使用する生徒が入学してきており、校内にエレベーターや階段へのスロープ、みんなのトイレの設置など、環境整備が進んでいる。

本研究の対象生徒は、3年次に在籍する男子生徒（以下「生徒A」と呼ぶ）である。脳性まひによる肢体不自由のため、移動は車いすを使用している。日頃の生活での移動は、自走式と電動式の車いすを使い分け、歩行する際は歩行器を使用している。そのため、様々な活動に制限が生じている。また、脳性まひによる不随意運動があり、可動域や力のコントロールに困難さが見られる。

昨年度、「体づくり運動」において、「共生」の視点を重視し、車いすを使用する生徒Aと他の生徒が一緒に取り組むことができる体育授業を実践した。その成果として、生徒Aと直接関わる機会があった生徒は、障がいの有無にかかわらず共に体育を学ぶことの意義や価値を実感することができたが、生徒Aと関わることもできた生徒に限られてしまったことから、より多くの生徒がそのことを実感できるようにすることが課題として残った。

そこで本研究では、昨年度の成果と課題を踏まえ、「球技 ネット型（テニス）」において、より多くの生徒が生徒Aと共に運動したり、自分も車いすを使用した運動を行ったりすることにより、障がいの有無にかかわらず共に体育を学ぶことの意義や価値を実感し、「共生」態度を育むことができる体育授業の実現を目指すこととした。

(2) 授業の概要（指導や支援の工夫、単元指導計画、学習指導案等）

【指導や支援の工夫】

本授業は、障がいの有無にかかわらず誰もが一緒に運動に取り組むことができるよう、以下のような学習活動を、学習のねらいや内容に合わせて配置して実践することとした。

○「ほとんど変更を加えなくても誰もが参加できる活動」

全員が順番に競技用車いすに乗り、車いすに乗っていない相手と一緒に運動することで、車いすに乗って運動するときの状況や、車いすに乗っているときはどのように関わってほしいのかを体験的に理解する活動を取り入れた。

○「みんなが同じ活動をするために行い方を工夫する活動」

全員がより多くラリーを続けることができるようにするために、使いやすい用具を試したり、易しくなるようにルールを変更したり、コートの大さを調整して、障がいの有無にかかわらず同じコートで一緒に練習やゲームを行った。

○「個別の課題に応じて練習方法やルールを選択して行う活動」

障がいの有無にかかわらず、いろいろなチームとゲームをして、多くの生徒が関わり合うことができるように、個別の課題を解決する練習方法をチームで選択し、ゲームの度に対戦チームとルールを相談して決めるようにした。

【単元指導計画、学習指導案等】

ア 単 元 ネット型（テニス）
 イ 内容のまとまり E 球技
 ウ 対 象 3年次（入学年次の次の年次以降）男子15名、女子4名 計19名
 エ 期 間 令和6年9月12日（木）から10月16日（水）
 オ 場 所 テニスコート 等
 カ 単元の目標

【知識及び技能】

次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、（技術などの名称や行い方）、（体力の高め方）、課題解決の方法、（競技会の仕方）（など）を理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。

ア ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

（球技に主体的に取り組むとともに）、（フェアなプレイを大切にしようとする）、合意形成に貢献しようとする、一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすること（など）や、（健康・安全を確保すること）ができるようにする。

キ 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、言ったり書き出したりしている。	①チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。 ②ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。	①チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けている。 ②体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。 ③チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案することができる。	①作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。 ②一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。 ③仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。

クー1 指導と評価の計画

時間		1	2	3	4	5	6
		ねらいに応じて個々が用具や行い方を選択してテニスを楽しもう					
学習過程	0	健康観察、本時の学習内容の確認、準備運動、自己の課題確認					
	10	オリエンテーション 健康観察 態②:共生	活動1 ペアラリー	活動1 個々の課題練習① ●ストローク練習（1本打ち） 技①:安定した用具の操作 態③:協力	活動1 試しのゲーム① ●キャッチ&スローゲーム 技②:連携した動き		
	20		活動2 ペアラリー ●20回連続				
	30		活動2 ペアラリー			活動2 個々の課題練習② ●キャッチ&バウンド ストローク練習 知①:目標設定、課題解決のための練習法選択	
	40						
50	健康観察、本時の振り返り（学習カード記入）、次時の確認						
評価機会	時間	1	2	3	4	5	6
	知						①
	技						
	思		②				
	態			②		③	

クー 2 指導と評価の計画

時間		7	8	9	10	11	12
		チームで攻防を楽しむための方法を考え、ゲームを楽しもう					
学習過程	0	健康観察、本時の学習内容の確認、準備運動、チームの課題確認					
	10	活動 1 チームの課題練習①		活動 1 チームの課題練習②			
	20	チームの課題に応じて用具やルールなどを選んで実践					
	30	活動 2 試しのゲーム② ● 3対3のゲーム		活動 2 簡易ゲーム①		活動 2 簡易ゲーム②	
	40	チームで用具やルールなどを変更して、ゲームを実践		相手に応じて用具やルールなどを変更		戦術に応じて用具やルールなどを変更	
	50	ゲームの振り返り					
	50	健康観察、本時の振り返り（学習カード記入）、次時の確認					
評価機会	時間	7	8	9	10	11	12
	知						総括的な評価
	技		②			①	
	思	①		③			
	態				①		

ケ 学習指導案

【本時の展開（12 時間扱いの 1 時間目）】

①本時の目標

- (1) チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができるようにする。

②本時の評価

本時は、評価は行わない。（本時の指導に係る学習評価は3 時間目に行う。）

③本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項、学習評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (15分)	1 挨拶、健康観察 2 準備運動 【ねらい】様々な用具で行うラリーを経験し、一人ひとりの違いに応じた用具選択などを大切にし、ラリーを楽しむ 3 オリエンテーション ・単元の目標を確認する。 ・学習の約束について考える。 【発問】皆がテニスの授業を楽しむために、どのようなことを大切にして授業に臨んだらよいと思いますか	○生徒の出欠確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。 ○単元の学習について説明する。	
	4 「共生」について学ぶ ・「共生」の具体的な姿について考え、学習カードに記入し、グループで共有し、全体に発表する。	○技能の程度等に関らず、「皆がテニスの授業を楽しむ」ことを目指すために必要な態度面を考えるよう促す。 ○「共生」の視点を基に仲間の特徴を理解するよう促す。	
展開 (25分)	5 車いすの特性理解 ・車いすを操作する。 6 ペアラリー 【ラケット】 ・手にはめるラケット ・木製ラケット ・ミニテニスラケット ・テニスラケット	○車いす操作について、実演し、体験させる。 車輪の動き、フレームやストッパーなど介助用途の違いをお伝える。 ○ラリーを続けるという目的を達成し、ラリーを楽しむために、用具やルールを調整する考え方も大切であることを伝える。 ○用具の特性について説明をする。 【ボール】 ・スポンジボール ・ソフトテニスボール ・ジュニア用テニスボール（オレンジ、グリーン） ・テニスボール	※車いすの特性を理解するために、全員が車いす操作を経験する。 ※用具の違いを全員が経験する。
まとめ (10分)	7 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 8 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気づきや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

本時は、評価は行わない。（本時の指導に係る学習評価は3 時間目に実施する）

⑤アダプテッドのポイント

【もの】



ラケット



ボール



テニス用車いす



サイドラインを使用

【本時の展開（12 時間扱いの 2 時間目）】

①本時の目標

- (1) チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができるようにする。

②本時の評価

思考・判断・表現②：体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。

③本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項、学習評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (15) 分	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ Open 【ねらい】 様々な用具で行うラリーを経験し、一人ひとりの違いに応じた用具選択などを大切に、ラリーを楽しむ ・前時にグループで決めた目標を振り返り、そのためにできた行動についてホワイトボードに記入する。 【発問】 皆がテニスの授業を楽しむための、グループで考えた目標で、仲間からの言葉や行動に対して、どのようなことを返したらよいと思いますか	○生徒の出欠確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。 ○前時のグループ別目標を振り返り、そのときに行った行動をホワイトボードに記載するよう伝える。 ○技能の程度等に関らず、「皆がテニスの授業を楽しむ」ことを目指すために必要な態度面を考えるよう促す。 ○「共生」の視点を基に仲間の特徴を理解するよう促す。	
展開 (25) 分	3 ペアラリー Open ・用具の選択をする。 ・連続 20 回のラリーを目指す。 【発問】 「連続 20 回のラリーを目標」にペアやグループが何を調整すればよいと思いますか 【ラケット】 ・手にはめるラケット ・木製ラケット ・ミニテニスラケット ・テニスラケット 【ボール】 ・スポンジボール ・ソフトテニスボール ・ジュニア用テニスボール（オレンジ、グリーン） ・テニスボール Modified	○用具の操作を緩和することや時間的な余裕を確保するために用具やルールを工夫することを説明する。 ○ラリーを続けるという目的を達成し、ラリーを楽しむために、用具やルールを調整する考え方も大切であることを伝える。 ○用具の特性について説明をする。 【評価】 思考・判断・表現②【学習カード】	※用具の違いを全員が経験する。 ※活動の目的に合わせ、用具を選択する。 【もの】 ・大きさや重さの異なるラケット、素材や大きさの違うボールを選択する。 ・コートの変更。 【人】 ・車いすや椅子に座る 【ルール】 ・バウンドの回数をツーバウンドやゴロなど変更する。 ※車いすや椅子を使用する場合 【人】 ・2対1のラリーとし、人数を調整する。 【ルール】 ・ボール出しの方法を変更する。 （他者からのバウンドを打つ） ・ツーバウンド以内にボールを処理する。 ボールを車いすに接触させたらキャッチとする。
まとめ (10) 分	4 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 5 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

・思考・判断・表現②：体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができる。

十分満足	(A)	体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむためルールや環境などの調整の仕方を見付け提案することができる。
おおむね満足できる	(B)	体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができる。
努力を要する	(C)	体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができない。

⑤アダプテッドのポイント

【もの】【人】



車いすの使用・用具選択



ペアラリー

【本時の展開（12 時間扱いの 3 時間目）】

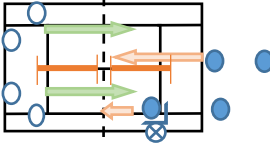
①本時の目標

- (1) チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができるようにする。

②本時の評価

主体的に学習に取り組む態度②:一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。

③本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項、学習評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10分)	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ Open 【ねらい】 ボールを打ち返す行い方を理解し、基本的な動作を身に付けよう 技能や状況、考えの違いを大切にし、楽しみながら練習に取り組む行動をしよう	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
展開 (30分)	3 個々の課題練習① Parallel ・用具を選択する。 ・ストロークラリーを行う。 【ルール】 (4人 or 5人 1グループ) ・ラケット当てる(キャッチ)と手で投げるバウンドを打つことを組み合わせたラリーを行う。 ・3分間コート内の人が交代しながら打つ。 ・打つ位置は自分で選択する。 ・ボール出しは、自分でバウンドさせるか、ペアにバウンドボールを投げてもらう。 【発問】 相手の状況を理解するにはどうしたらよいか。 そして、みんなが学習課題に取り組むために、何をどのように調整すればよいだろう ・自分の課題や困っていることをグループに伝える。	○前時に使用して良かった用具を含め、様々な用具を使って準備運動をするよう促す。 ○ストロークラリーの行い方について説明をする。 ○自己の課題に応じた用具を選択するよう、課題の確認を行う。  ○運動が苦手な生徒や車いすに乗った生徒の状況を再現するよう促す。 「どういう状況」「何に困っているのかな?」 「試しにやってみたら?」 【評価】 主体的に学習に取り組む態度②【観察・学習カード】	※バウンドするボールを打つために個々の能力に応じた練習方法を選択する。 【もの】 ・ラケット、ボールなどの用具を選択する。 【人】 ・車いすや椅子に座る。 【ルール】 ・打つ位置を選択する。 ・ボール出しはペアが行い、相手から来たボールはキャッチをしてもよい。 ・ツーバウンド以内で処理する。 ※車いすや椅子を使用する場合 【人】 ・ボール出しの時は、別の人に代わってもらう。 【ルール】 ・ボール出しの方法を変更する。 (他者からのトスされたバウンドボールを打つ) ・ボールを車いすに接触させたらキャッチとする。
まとめ (10分)	4 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 ・グループ内で振り返りを発表し、伝える。 5 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

・主体的に学習に取り組む態度②:一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。

十分満足	(A)	一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にし、仲間が練習に参加しやすくなるよう調整をしている。
おおむね満足できる	(B)	一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。
努力を要する	(C)	一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができない。

⑤アダプテッドのポイント

【人】 【ルール】



ボールのバウンドさせる位置を確認



後方にいる生徒がスイングを確認



ケンステップを使用してバウンドの位置を視覚化

【本時の展開（12 時間扱いの 4 時間目）】

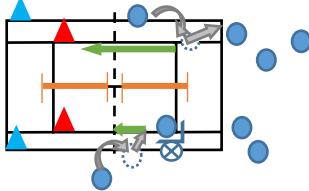
①本時の目標

- (1) チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとすることができるようにする。

②本時の評価

本時は、評価は行わない。（本時の指導に係る学習評価は 8 時間目に行う。）

③本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項、学習評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10分)	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ Open 【ねらい】 ボールを打ち返す行い方を理解し、基本的な動作を身に付けよう 技能や考えの違いを大切に、互いに課題解決の方法を伝えて、楽しみながら練習に取り組もう	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
展開 (30分)	3 個々の課題練習① Parallel ・用具を選択する。 ・ストロークラリーを行う。 【ルール】 (4人 or 5人 1グループ) ・打つ位置は自分で選択する。 ・ボール出しは、自分でバウンドさせるか、ペアにバウンドボールを投げてもらう。 【発問】 前時の 1 本打ちストローク練習の際、ネットを越えなかったり、コート内にボールを打つことが出来なかったりしたのは、なぜだと思いますか。（テニスの戦術を考える） 【予想される生徒の回答】 ・ボールとラケットの打つ位置 ・ラケットの角度 ・ボールの当たるタイミングやラケットの振り始めのタイミング ・ラリーを続けることを目指すために「コート内に打つ」ことを目指す。 ・「面」、「打つ位置」と「タイミング」を重視する。	○前時に使用して良かった用具を含め、様々な用具を使って準備運動をするよう促す。 ○ストロークラリーの行い方について説明をする。 ○自己の課題に応じた用具を選択するよう、課題の確認を行う。 ○想定外の回答でも受容できるようにし、本時の課題に焦点を当てる。  ○課題解決のための三つのポイントについて、グループで話し合いながら活動するよう促す。	※バウンドするボールを打つために個々の能力に応じた練習方法を選択する。 【もの】 ・ラケット、ボールなどの用具を選択する。 【ルール】 ・打つ位置を選択する。 ・ボール出しはペアが行い、相手から来たボールはキャッチをしてもよい。 ※車いすや椅子を使用する場合 【人】 ・ボール出しの時は、別の人に代わってもらう。 【ルール】 ・ボール出しの方法を変更する。 （他者からのトスされたバウンドボールを打つ） ・ボールを車いすに接触させたらキャッチとする。 ・ツーバウンド以内で処理をする。
まとめ (10分)	4 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 5 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

本時は、評価は行わない。（本時の指導に係る学習評価は 8 時間目に実施する）

⑤アダプテッドのポイント

【もの】 【人】 【ルール】



自分でボールを落として打つことに挑戦



斜め前から投げたバウンドのボールを打つ



仲間のスイングを後方から確認

【本時の展開（12 時間扱いの 5 時間目）】

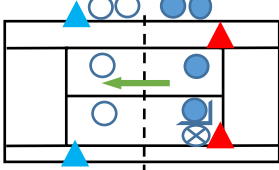
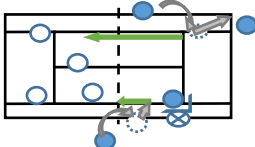
①本時の目標

- （１）ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようになる。
- （２）体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようになる。
- （３）仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとすることができるようにする。

②本時の評価

主体的に学習に取り組む態度③：仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。

③本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項、学習評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10分)	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ 【ねらい】 試しのゲームをととして、味方や相手の動きに応じた動きを身に付け、用具やルール等を調整して仲間と協力してゲームを楽しもう	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
展開 (30分)	3 試しのゲーム①（２対２） ・キャッチ&スロー ゲーム Modified 【ルール】 1試合3分間 ・手に持ったボールを互いにワンバウンドさせて行う。 ・キャッチ&スローで行う。 ・手でボールを触ったらキャッチとし、その場から相手コートに返す。 ・車いすや椅子に座っている場合は、車いすや椅子に接触したらキャッチとする。 ・コート内でツーバウンドしたり、ラインの外でバウンドしたりしたら、相手の得点とする。 ・得点を取ったり、取られたりしたらメンバーを交代する。 【発問】 相手の守備のバランスを崩して、空間を作るための方法を考えよう	○味方や対戦相手の状況に応じて、ルールやコートの大きさを変更することで皆が楽しめる方法を提示する。 	※ネットを挟んだ攻防をするために、ラケットは使用せず、手でボールを操作する。 【もの】 ・ソフトボールを使用する。 【ルール】 ・打つ位置を選択する。 ・スローはアンダースローで始める。 ※車いすや椅子を使用する場合 【ルール】 ・スローはオーバーでもよい。 ・ボールを車いすに接触させたらキャッチとする。 ・ツーバウンド以内で処理をする。 ・コートの広さを狭くする。
	4 個々の課題練習 ・キャッチ&バウンド ストローク Modified  ・「面」「打つ位置」と「タイミング」の練習を選択する。 ・グループで互いに助け合って練習する。 ・グループで互いに課題を発見し、解決方法を相談する。	○ラリーの方法について、キャッチ&バウンドを打つことをラリーとすることを伝える。 【行い方】（４人 or 5人 1グループ） ・打つ側とキャッチする側に分かれて行う。 ・打つ位置やキャッチする位置は、自分で選択する。 ・打ち始めの球出しは、ペアがバウンドさせたボールを打つ。 【評価】 主体的に学習に取り組む態度③【観察・学習カード】	※動いているボールを打つことが難しいため、ボールを打つ方法の選択を追加する。 【もの】 ・T 台に置いたボールを打つ
まとめ (10分)	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 ・グループ内で振り返りを発表し、伝える。 6 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気づきや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

・主体的に学習に取り組む態度③：仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。

十分満足	(A)	仲間の課題を指摘し、課題解決方法を提案するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。
おおむね満足できる	(B)	仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとしている。
努力を要する	(C)	互いに助け合い高め合おうとする中で、仲間の課題について、間違った解釈となっていたりしている。

⑤アダプテッドのポイント

【もの】 【人】 【ルール】



キャッチ&スロー ゲーム
コートの大きさを変更



キャッチ&バウンド ストローク



【本時の展開（12 時間扱いの 6 時間目）】

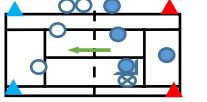
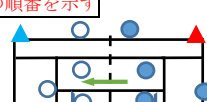
①本時の目標

- (1) 課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、理解できるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 仲間の課題を指摘するなど、互いに助け合い高め合おうとすることができるようにする。

②本時の評価

知識・技能（知識②）：課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、理解できる。

③本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項、学習評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10分)	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
	【ねらい】課題解決の過程について理解し、目標を設定しよう。		
展開 (30分)	3 試しのゲーム①（2対3、3対3） ・キャッチ&スロー ゲーム（2対3）  Modified 4 個々の課題練習② ・キャッチ&バウンド スト Modified  【発問】個人やチームの課題を解決するための過程について、どのような手順で課題に取り組みればよいと思いますか 【予想される生徒の回答】 ・とにかく練習する ・課題克服のための練習をする ・グループで互いに助け合って練習する。 ・グループで互いに課題を発見し、解決方法を相談する。	○味方や対戦相手の状況に応じて、ルールや人数を変更することで皆が楽しめる方法を提示する。 ●ローテーションの順番を示す (3対3)  ○練習することは大事だが、何ができない原因となっているのか、どう練習するのかといった課題を見付けることが大事であることに気付かせ、動きを見るポイントを再度伝える。 【「面」「打つ位置」と「タイミング」】 ○自分にあった練習を選択するよう伝える。	※車いすや椅子を使用する場合の状況に応じて、人やルールを変更する。 【人】 ・グループに1台車いすや椅子を使用 【ルール】 ・スローはアンダースロー ※車いすや椅子を使用する場合 【ルール】 ・スローはオーバーでもよい。 ・ボールを車いすに接触させたらキャッチとする。 ・ツープバウンド以内で処理をする。 ・コートを広さを狭くする。 ※動いているボールを打つことが難しいため、ボールを打つ方法の選択を追加する。 【もの】 ・T 台に置いたボールを打つ
まとめ (10分)	5 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 6 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 【評価】知識・技能（知識②）【学習カード】 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・知識②：課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、理解できる。

十分満足	(A)	課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、理解し具体的な課題解決の過程を設定・修正できる。
おおむね満足できる	(B)	課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、理解できる。
努力を要する	(C)	課題解決の方法には、チームや自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などの選択と実践、ゲームなどを通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった過程があることについて、理解できない。

⑤アダプテッドのポイント

【人】 【もの】 【ルール】



キャッチ&スロー ゲーム
(2対3、3対3)



T 台にボールを乗せて練習

【本時の展開（12 時間扱いの 7 時間目）】

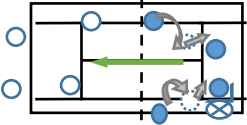
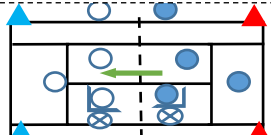
①本時の目標

- (1) ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようになる。
- (2) チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けることができるようになる。
- (3) 作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとすることができるようになる。

②本時の評価

思考・判断・表現①：チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けることができる。

③本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項、学習評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10分)	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ 【ねらい】チームでの話合いの場面で、仲間が自分とは異なる意見が出た場合にどのように話合いを進めたり、チームの意見としてまとめたりすればよい方法を考えよう	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
展開 (30分)	3 チームの課題練習① ・前時の自己の課題を振り返る。 ・課題別に練習に取り組む。 	○前時に設定した目標を確認して、自己の課題に応じた練習を選択する。 【行い方】(4人 or 5人 1チーム) ・打つ側とキャッチする側に分かれて行う。 ・打つ位置やキャッチする位置は、自分で選択する。 ・打ち始めの球出しを【選択】 ①ベアが斜めバウンドさせたボールを打つ。 ②ベアが真上から落下させたバウンドボールを打つ。 ③自分でバウンドさせる。 ④T 台の上に置いたボールを打つ。	※動いているボールを打つことが難しいため、ボールを打つ方法の選択を追加する。 【もの】 ・T 台に置いたボールを打つ。 ※ラケット操作と車いす操作を同時に行うのは難しいため、車いす操作のみを行う。
	4 試しのゲーム② (3 対 3) Modified 【発問】チームでの話合いの場面で、相手が自分とは異なる意見だった場合にどのように話合いを進めるとよいと思いますか ・話合いの進め方について考える。 ・ホワイトボードに記入する。 ・チームの考えをクラス全体に共有する。 【予想される生徒の回答】 ・話を受け入れる ・自分は意見を言わない ・話を聞き、より良い方向になるようチームで考える 	○進め方を考える際、誰かの意見だけを取り上げるのではなく、全員の意見として考えるよう促す。 ○考えをホワイトボードに記入するよう伝える。 ○クラス全体に向けて考えを伝えるよう促す。 ○試しのゲームのルールを説明する。 【ルール】4人 or 5人1チーム (全チーム車いす使用) ・サーブは手でトスを投げてから始める。 ・ラリーのボールはキャッチしてもよい。 ・キャッチは、ラケットに当たったらキャッチ。 ・キャッチ後は、ラケットで打つ。(バウンドさせてもよい) ・ラリーが止まったら、得点とし、必ずメンバーを交代する。 ・5 分間の合計得点で勝敗を決める。	※車いすや椅子を使用する場合 【ルール】 ・ボールまでの移動 (車いす操作)。 ※試しのゲームでは、相手チームと同じ状況にする。 【人】 ・チームに 1 台車いすを使用する。 ※車いすや椅子を使用する場合 【ルール】 ・スローはオーバーでもよい。 ・ボールを車いすに接触させたらキャッチとする。 ・ツーバウンド以内で処理をする。 ・コート of の広さを狭くする。
	5 ゲームの振り返り ・ゲームの結果から、チームの課題を振り返る。	○ゲームの結果からチームの振り返りをし、自己の課題を見付けるよう促す。 【評価】思考・判断・表現①【観察・学習カード】	
まとめ (10分)	6 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 ・チーム内で振り返りを発表し、伝える。 7 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

・思考・判断・表現①：チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けることができる。

十分満足	(A)	チームでの話合いの場面で、仲間の意見を取り入れるなど、合意を形成するための調整の仕方を見付けることができる。
おおむね満足できる	(B)	チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けることができる。
努力を要する	(C)	チームでの話合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けることができない。

⑤アダプテッドのポイント

【もの】 【人】 【ルール】



打つ位置を変更



操作しやすい用具を選択



試しのゲーム② (3 対 3)



【本時の展開（12 時間扱いの 8 時間目）】

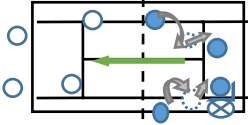
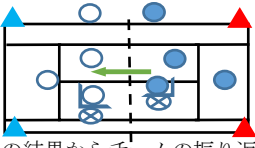
①本時の目標

- (1) ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができるようにする。
- (2) チームでの話し合いの場面で、合意を形成するための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとすることができるようにする。

②本時の評価

知識・技能（技能）②：ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。

③本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項、学習評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10分)	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ 【ねらい】簡易ゲームをととして、味方や相手チームの動きに応じた動きを身に付け、用具やルール等を調整してゲームを楽しもう	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
展開 (25分)	3 チームの課題練習① ・前時の自己の課題を振り返る。 ・課題別に練習に取り組む。  Parallel 4 試しのゲーム②（3対3） 【発問】相手チームの守備のバランスを崩して、空間をつくための作戦を考えよう ・チームで戦術について考える。 【ルール】（全チーム車いす or 椅子を使用） ・サービスは手でトスを投げてから始める。 ・ラリーのボールはキャッチしてもよい。 ・キャッチは、ノーバウンドボールかワンバウンドボールがラケットに当たったらキャッチ。 ・キャッチ後は、5秒以内にラケットで打ち返す。 ※追加（バウンドさせてもよい） ・ラリーが止まったら、得点とし、必ずメンバーを交代する。 ・5分間の合計得点で勝敗を決める。 5 ゲームの振り返り ・ゲームの結果から、チームの課題を振り返る。	○前時に設定した目標を確認して、自己の課題に応じた練習を選択する。 ・コート内に打つために調整する。 →用具の特性（反発力など） →車いすの操作練習 ○ルールは前回から一部変更する。 ボールをキャッチしてから時間がかかっていたため、キャッチしてから5秒以内に返球する。 ※予備ボールは車いすのフレームに入れる。 ○試しのゲームのルールを説明する。  ○ゲームの結果からチームの振り返りをし、自己の課題を見付けるよう促す。 【評価】知識・技能（技能）②【学習カード】	※動いているボールを打つことが難しいため、ボールを打つ方法の選択を追加する。 【もの】 ・T 台に置いたボールを打つ ※ラケット操作と車いす操作を同時に行うのは難しいため、車いす操作のみを行う。 ※車いすや椅子を使用する場合 【ルール】 ・ボールまでの移動（車いす操作）。 ※試しのゲームでは、相手チームと同じ状況にする。 【人】 ・チームに1台車いすまたは椅子を使用する。 ※車いすや椅子を使用する場合 【人】 ・人数を増やす。 【ルール】 ・味方からのバウンドボールを打つ。 ・ボールを車いすに接触させたらキャッチとする。 ・ツーバウンド以内で処理をする。
まとめ (10分)	6 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 ・チーム内で振り返りを発表し、伝える。 7 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気づきや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・知識・技能（技能②）：ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。

十分満足	(A)	ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動き方を味方へ伝えたり、動いたりすることができる。
おおむね満足できる	(B)	ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができる。
努力を要する	(C)	ラリーの中で、相手の攻撃や味方の移動で生じる空間をカバーして、守備のバランスを維持する動きをすることができない。

⑤アダプテッドのポイント

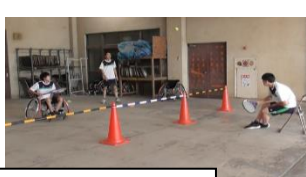
【もの】 【人】 【ルール】



チーム練習



3対3 車いすと椅子を使用



チームでルールを選択

※雨天の為、ピロティで実施

【本時の展開（12 時間扱いの 9 時間目）】

①本時の目標

- （１）チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようにする。
- （２）チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案することができるようにする。
- （３）作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとすることができるようにする。

②本時の評価

思考・判断・表現③：チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案することができる。

③本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項、学習評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10分)	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ 【ねらい】 チームで一人ひとりの得意が生かせる戦術を考え、用具やルール等を調整してゲームを楽しもう	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
展開 (25分)	3 チームの課題練習② ・自己の得意な動きや課題を共有する。 ・チームで戦術について考える。 ・前時の簡易ゲームから、自チームの特徴を踏まえ、用具やルールを考える。 ・チームで互いに助け合って練習する。 【発問】得意が生かせる戦術を考え、チームの志気を高めるチームパフォーマンスを考えよう	○前時までの活動から、自己の課題を振り返らせ、チームで共有するよう促す。	※チームの課題に応じた練習を行う。 【人】 ・個別にボールとラケットの当たる練習をする（ボレー）。 ・車いすの操作（前後左右への移動）の練習をする。
	4 簡易ゲーム①（用具やルールの工夫） ①A-C、B-D ②A-D、B-C ③A-B、C-D ・対戦相手に考えたルールを提案する。 【ルール】 ・キャッチは、ノーバウンドボールかワンバウンドボールがラケットに当たったらキャッチ。 ・キャッチ後は、5秒以内にラケットで打ち返す。（バウンドさせてもよい） ・ラリーが止まったら、得点とし、必ずメンバーを交代する。 ・5分間の合計得点で勝敗を決める。 5 ゲームの振り返り ・ゲームの結果から、チームの課題を振り返る。	ダイレクトの打ち返しは、時間的余裕がなくなる。時間的余裕の確保のためにキャッチの選択も可。 ※キャッチの際、コート外に出た場合はアウト。コート内は5秒以内にボールを打ち直す（車いすのスペアボールを使う） 【例：役割を決める】 ①椅子または、車いすに座る ②キャッチ専門 ※①②は兼ねることができる ③キャッチ&打つ ○互いに試合を楽しむために、ルールを調整するよう促す。 【評価】 思考・判断・表現③【観察・学習カード】 ○ゲームの結果から、「一人ひとりの得意が生かせる戦術を考えることができたか」個人で振り返り、チームで共有するよう促す。	※簡易ゲームでは、チームの状況を踏まえてルール設定を行う。 【人】 ・チームに1台車いすまたは椅子を使用する。 ※車いすや椅子を使用する場合 【もの】 ・テニス用車いすを使用する。 ・用具操作の緩和のために、大きさや重さの異なる用具を選択する。 【人】 ・ゲームの参加人数を調整する。 【ルール】 ・対戦相手と相談し、ルールを変更する。
まとめ (10分)	6 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 ・グループ内で振り返りを発表し、伝える。 7 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

・主体的に学習に取り組む態度③：チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案することができる。

十分満足	(A)	チームでの学習で、仲間の状況に応じてチームや自己の役割が生かせるよう、ゲームの中で仲間へ伝え、調整をしている。
おおむね満足できる	(B)	チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案することができる。
努力を要する	(C)	チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案することができない。

⑤アダプテッドのポイント

【もの】 【人】 【ルール】



ルールをチームで確認



簡易ゲーム
チーム独自のルールの共有とボール選択



※テニスコート不良の為、グラウンドで実施

【本時の展開（12 時間扱いの 10 時間目）】

①本時の目標

- （１）チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようにする。
- （２）チームでの学習で、状況に応じてチームや自己の役割を提案することができるようにする。
- （３）作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとすることができるようにする。

②本時の評価

主体的に学習に取り組む態度①：作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとしている。

③本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項、学習評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10分)	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ 【ねらい】簡易ゲームをとおして、味方や相手チームの動きに応じた動きを身に付けよう用具やルール等を調整してゲームを楽しもう	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
展開 (25分)	3 チームの課題練習② Parallel ・自己の得意な動きや課題を共有する。 ・チームで戦術について考える。 ・前時の簡易ゲームから、自チームの特徴を踏まえ、用具やルールを考える。 ・チームで互いに助け合って練習する。 4 簡易ゲーム①（用具やルールの工夫） Modified ①A-C、B-D ②A-D、B-C ③A-B、C-D ・対戦相手に考えたルールを提案する。 5 ゲームの振り返り ・ゲームの結果から、チームの課題を振り返る。	○前時までの活動から、自己の課題を振り返らせ、チームで共有するよう促す。 ○対戦相手の特徴を踏まえ、仲間とカバーし合いながらゲームが楽しめる戦術を考えるよう促す。 【評価】主体的に学習に取り組む態度①【観察・学習カード】 ○互いに試合を楽しむために、ルールを調整するよう促す。 ○ゲームの結果からチームの振り返りをするよう促す。	※チームの課題に応じた練習を行う。 ※車いすや椅子を使用する場合 【人】 ・個別にボールとラケットの当たる練習をする（ボレー）。 ・車いすの操作（前後左右への移動）の練習をする。 ※簡易ゲームでは、チームの状況を踏まえてルール設定を行う。 【人】 ・チームに1台車いすまたは椅子を使用する。 ※車いすや椅子を使用する場合 【もの】 ・テニス用車いすを使用する。 ・用具操作の緩和のために、大きさや重さの異なる用具を選択する。 【人】 ・ゲームの参加人数を調整する。 【ルール】 ・対戦相手と相談し、ルールを変更する。
まとめ (10分)	6 本時の振り返り、次時への見通しをもつ ・学習カードを記入する。 ・グループ内で振り返りを発表し、伝える。 7 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

・主体的に学習に取り組む態度①：作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとすることができる。

十分満足	(A)	作戦などを話し合う場面で、仲間を尊重しながら発言するなど合意形成に貢献しようとすることができる。
おおむね満足できる	(B)	作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとすることができる。
努力を要する	(C)	作戦などを話し合う場面で、合意形成に貢献しようとすることができない。

⑤アダプテッドのポイント

【もの】 【人】 【ルール】



チーム練習



簡易ゲーム
チーム独自のルールで行う



※雨天の為、ピロティで実施

【本時の展開（12 時間扱いの 11 時間目）】

- ①本時の目標
- (1) チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようにする。
- (2) 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- (3) 一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができるようにする。
- ②本時の評価
- 知識・技能（技能）①：チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。
- ③本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項、学習評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10分)	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
	【ねらい】チームの得意を生かした戦術でゲームを楽しもう		
展開 (25分)	3 チームの課題練習② Parallel - 相手チームの守備のバランスを崩して、空間をつくるための作戦を考える。 - 一人ひとりの役割を考える。 - 前時の簡易ゲームから、自チームの特徴を踏まえ、ルールを考える。 - チームで互いに助け合って練習する。	○前時までの活動から、自己の課題を振り返らせ、チームで共有するよう促す。 ○得意を生かした役割を考えるよう促す。 ○対戦相手の特徴を踏まえ、戦術を考えるよう促す。 ○互いに試合を楽しむために、ルールを調整するよう促す。	※チームの課題に応じた練習を行う。 ※車いすや椅子を使用する場合 【人】 - 個別にボールとラケットの当たる練習をする（ボレー）。 - 車いすの操作（前後左右への移動）の練習をする。
	4 簡易ゲーム②（戦術） Modified - 対戦相手に考えたルールを提案する。 ①A-C、B-D ②A-D、B-C ③A-B、C-D 5 ゲームの振り返り - ゲームの結果から、チームの課題を振り返る。	評価 知識・技能（技能）①【観察・学習カード】 ○ゲームの結果からチームの振り返りをするよう促す。	※簡易ゲームでは、チームの状況を踏まえてルール設定を行う。 【人】 - チームに1台車いすまたは椅子を使用する。 ※車いすや椅子を使用する場合 【もの】 - テニス用車いすを使用する。 - 用具操作の緩和のために、大きさや重さの異なる用具を選択する。 【人】 - ゲームの参加人数を調整する。 【ルール】 - 対戦相手と相談し、ルールを変更する。
まとめ (10分)	6 本時の振り返り、次時への見通しをもつ - 学習カードを記入する。 - グループ内で振り返りを発表し、伝える。 7 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。	

- ④学習評価の実現状況を判断する目安
- ・知識・技能（技能）①チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。

十分満足	(A)	チームの作戦に応じた守備位置から、相手の陣地に空間を作り出すために拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。
おおむね満足できる	(B)	チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。
努力を要する	(C)	チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができない。

⑤アダプテッドのポイント

【もの】 【人】 【ルール】



簡易ゲーム



チームの振り返りとルールの修正

※テニスコート不良の為、グラウンドで実施

【本時の展開（12 時間扱いの 12 時間目）】

①本時の目標

- （１）チームの作戦に応じた守備位置から、拾ったりつないだり打ち返したりすることができるようにする。
- （２）体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けることができるようにする。
- （３）一人ひとりの違いに応じたプレイなどを大切にしようとすることができるようにする。

②本時の評価

本時は、総括的な評価の時間となる。

③本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意事項、学習評価	共に学ぶための指導のポイント
導入 (10分)	1 挨拶、健康観察、準備運動 2 本時の学習に見通しをもつ 【ねらい】 用具やルールを調整し、みんなでゲームを楽しもう	○生徒の出欠席確認を行い、健康状態を把握する。 ○本時の学習のねらいを確認する。	
展開 (25分)	3 チームの課題練習② Parallel - 相手チームの守備のバランスを崩して、空間をつくるための作戦を考える。 - 前時の簡易ゲームから、自チームの特徴を踏まえ、ルールを考える。 - チームで互いに助け合って練習する。 4 簡易ゲーム②（戦術） Modified - 対戦相手に考えたルールを提案する。 ①A-C、B-D ②A-D、B-C ③A-B、C-D 5 ゲームの振り返り - ゲームの結果から、チームの課題を振り返る。	○前時までの活動から、自己の課題を振り返らせ、チームで共有するよう促す。 ○対戦相手の特徴を踏まえ、戦術を考えるよう促す。 ○互いに試合を楽しむために、ルールを調整するよう促す。 ○ゲームの結果からチームの振り返りをするよう促す。	※チームの課題に応じた練習を行う。 ※車いすや椅子を使用する場合 【人】 ・個別にボールとラケットの当たる練習をする（ボレー）。 ・車いすの操作（前後左右への移動）の練習をする。 ※簡易ゲームでは、チームの状況を踏まえてルール設定を行う。 【人】 ・チームに1台車いすまたは椅子を使用する。 ※車いすや椅子を使用する場合 【もの】 ・テニス用車いすを使用する。 ・用具操作の緩和のために、大きさや重さの異なる用具を選択する。 【人】 ・ゲームの参加人数を調整する。 【ルール】 ・対戦相手と相談し、ルールを変更する。
まとめ (10分)	6 本時の振り返り、次時への見通しをもつ - 学習カードを記入する。 - グループ内で振り返りを発表し、伝える。 7 整理運動、健康観察、挨拶	○巡回し、個人カードの記入を確認する。 ○気付きや考えを取り上げて称賛する。	

④学習評価の実現状況を判断する目安

- ・本時は、総括的な評価の時間となる。

⑤アダプテッドのポイント

【もの】 【人】 【ルール】



チームの振り返り



簡易ゲーム



A チーム(車いすを使用する生徒がいるチーム)

B チーム

《調整のためのヒント》

【もの】テニスラケット、ボールの種類 【人】ゲームの参加人数 【ルール】コートの広さ、バウンドの回数、得点方法 など

〈チームの皆がゲームを楽しむための調整方法〉※毎試合変更してもよい。

【もの】	ラケットを小こいのに変える→個人で使いやすいのにする ボールはなつらうの(緑のボール)
【人】	3人 前1人 後2人
【ルール】	バウンド車増 2回 並で3人1回 車いすがいす便. 2を5らう 車いす 1つ(お) 1人. 2人 打ち返す コーンによって人数が変えら 

●ゲームのチームの振り返り

	【もの】【人】【ルール】の調整に対する振り返り
①(10月7日)	「ルール」で、相手にボールを叩かせるのを、ラケットが大きい。だから小さいにしたい方が良い。
②(10月9日)	人による。ラケットを要する。前回よりも個人が打ちやすくなるのを認めた。なのでやりやすくなった。
	チームの戦術に対する振り返り(空間をカバーなど)
④(10月11日)	人数調整は、打ち方の強弱、バウンドの強弱、アタックの強弱をそれぞれでやる。
⑤(10月16日)	コートが大きくなる前より少なくなったので、ボールがこぼれやすくなった。途中でバウンドを助けたら、ボールがこぼれやすくなった。

C チー ム

《調整のためのヒント》

【もの】テニスラケット、ボールの種類 【人】ゲームの参加人数 【ルール】コートの広さ、バウンドの回数、得点方法 など

〈チームの皆がゲームを楽しむための調整方法〉※毎試合変更してもよい。

【もの】	・テニスラケット・テニスボール ・トップのボール
【人】	・ 車いすの人は2人 車いすの人と1人7人 車いすの人もいなくも3人 2人 2人
【ルール】	・車いすの人はがキックも3点、車いす以外は点、 交代は時計回り では 車いすの人は1人3人、いないは場合は2人 ・「トップのボール」点をとれた人が負け

●ゲームのチームの振り返り

	【もの】【人】【ルール】の調整に対する振り返り
①(10月9日)	ルールがあまりいまい、立ち位置を定める、交代のタイミングも決める。
②(10月9日)	コネクトよくできた、ローテーションがうまくできた。
	チームの戦術に対する振り返り(空間をカバーなど)
④(10月11日)	コミュニケーションができていない、声かけをする、力加減を考える。
⑤(10月16日)	前回よりコミュニケーションがとれていた。

！《調整のためのヒント》

【もの】テニスラケット、ボールの種類 【人】ゲームの参加人数 【ルール】コート of 広さ、バウンドの回数、得点方法 など

(チームの皆がゲームを楽しむための調整方法) ※毎試合変更してもよい。

【もの】	自由 ボールは普通のやつ
【人】	3人 2人 + 1人 (赤子)
【ルール】	ボールはネット際、後3人 サーブはボールの半分 コート全面 1人 - のボールはネット際までとなくても良い サーブミスは失点

●ゲームのチームの振り返り

【もの】【人】【ルール】の調整に対する振り返り	
① (10月7日)	10月10日までに 10月10日までに
② (10月9日)	10月10日までに 10月10日までに
チームの戦術に対する振り返り(空間をカバーなど)	
④ (10月11日)	10月10日までに 10月10日までに
⑤ (10月16日)	10月10日までに 10月10日までに

D チーム

《調整のためのヒント》

【もの】テニスラケット、ボールの種類 【人】ゲームの参加人数 【ルール】コートの広さ、パウンドの回数、得点方法 など

〈チームの皆がゲームを楽しむための調整方法〉※毎試合変更してもよい。

【もの】	かつらのラケット
【人】	2人, 3人
【ルール】	打ち返す, グリッペン, ラスコートの底まであり、ネットは15以内

●ゲームのチームの振り返り

	【もの】【人】【ルール】の調整に対する振り返り
①(10月9日)	とルールに不承にたふさなくフェアにプレイするこをさせた 人知らないこをわかって思ふ
②(10月9日)	相手とルールを合わせたから分かるか、わかったと思う 自分へ変えても問題なく出来るのは相手に合わせて、曲で変えた方がいいものは多分合います
	チームの戦術に対する振り返り(空間をカバーなど)
④(10月11日)	相手のルールは柔軟に対応できるように。 一人一人の得意なことを押し、それを戦に活かすポジションをプレイして。 ポジションコンボーションがわかる。
⑤(10月16日)	キックは得意(1人) 相手チームのルールによって自分のルールを減らす(相手)

チーム No. _____【メンバー：】

●チームの志気を高めるパフォーマンスを決めよう

●簡易ゲームで、味方や相手チームとともにゲームを楽しむために、何を調整するか考える。

【ルール】4 人 or5 人 1 グループ（全チーム車いすまたは、椅子を使用）

- ・サービスは手でトスを投げてから始める。
- ・ラリーのボールはキャッチしてもよい。キャッチは、ラケットに当たったらキャッチ。
- ・キャッチ後は、5 秒以内にラケットで打ち返す。（バウンドさせてもよい）

※キャッチの際、コート外に出た場合はアウト。コート内は、誰が拾っても OK で、5 秒以内にボールを打ち直す。
ボールが遠くへ行ってしまった場合は、車いすのスペアボールを使う

- ・ラリーが止まったり、ラインアウトしたりしたら得点とし、必ずメンバーを交代する。
- ・5 分間の合計得点で勝敗を決める。

【得意を生かすルールの例】

例：役割を決める

- ①椅子または、車いすに座り、ネット際でボールの侵入を防ぐ
- ②キャッチ専門 ※①②は兼ねることができる
- ③キャッチ&打つ

《調整のためのヒント》

【もの】テニスラケット、ボールの種類 【人】ゲームの参加人数 【ルール】コートの広さ、バウンドの回数、得点方法 など

〈チームの皆がゲームを楽しむための調整方法〉 ※毎試合変更してもよい。

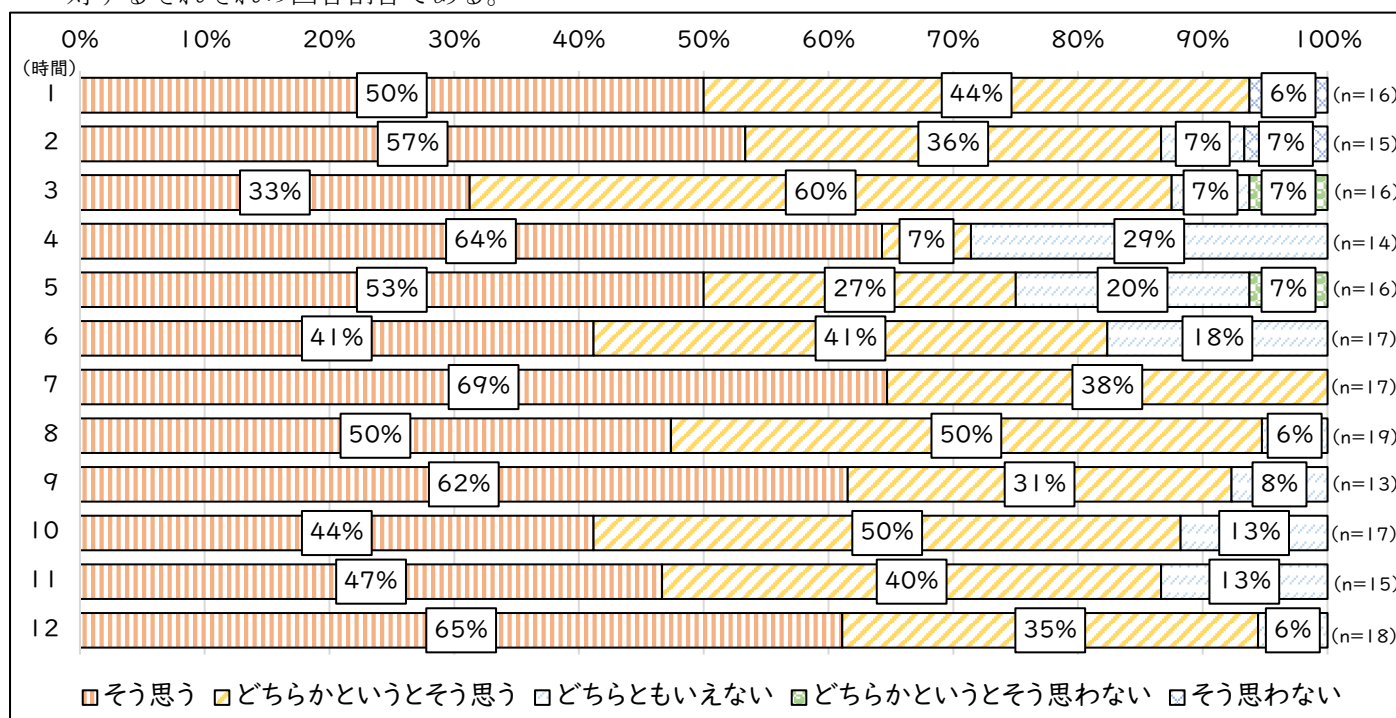
【もの】	
【人】	
【ルール】	

●ゲームのチームの振り返り

	【もの】【人】【ルール】の調整に対する振り返り
①（ 月 日）	
②（ 月 日）	
	チームの戦術に対する振り返り（空間をカバーなど）
④（ 月 日）	
⑤（ 月 日）	

(3) 成果と課題

生徒に毎時間質問した「一人ひとりの違いを大切にしながら取り組みましたか」という質問（5件法）に対するそれぞれの回答割合である。

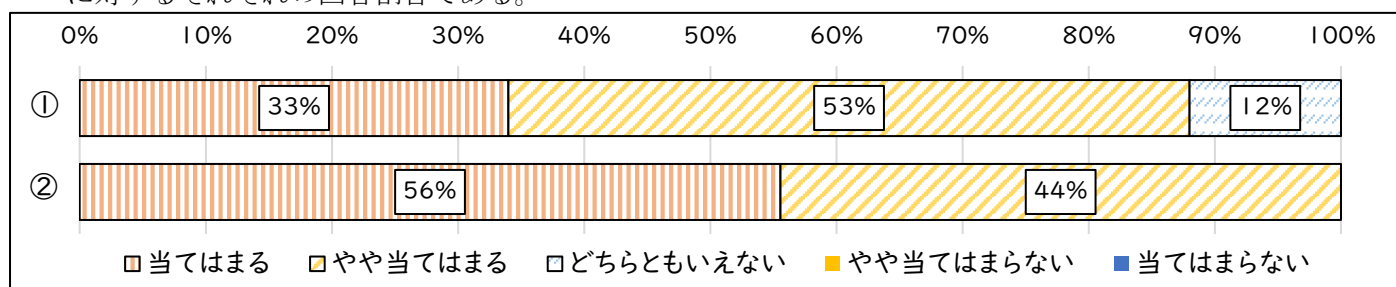


「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせた肯定群が、70%～100%であった。このことから、本研究授業で実践した指導や支援の工夫は、多くの生徒が障がいの有無に関わらず共に体育を学ぶことの意義や価値を実感し、「共生」の態度を育むことに有効であったと考えられる。

生徒の振り返りには、「車いすの動きにくさ、不便さ、周りの助けがあるとどれだけ楽になるかを知ることができました」や「どのラケットやボールがやりやすいか、車いすはどのくらい動けるかを体験することで、より理解ができました」といった記載があったことから、車いすを使用する他者と共に運動をする時の配慮や工夫について気付く活動になったことが分かった。

また、生徒Aの振り返りには、「チームで用具やルール等を調整しながら取り組むことで一人ひとりがよりよい方法で楽しみながらテニスの試合をすることができました」と記載があったことから、技能の程度、障がいの有無等にかかわらず、楽しむことができる方法を考えながら活動していたことが分かった。

●時間目に調査をした「①多様な種類のラケットやボール、車いすを使った活動は、一人ひとりの違いを理解することに役立ちましたか。」という質問（5件法）と、●時間目に調査をした「②用具の選択やルールを変更して行った活動は、一人ひとりの違いを理解することに役立ちましたか。」という質問（5件法）に対するそれぞれの回答割合である。



どちらも80%以上の生徒が肯定的な回答をした。用具やルールを選択・変更したり、実際に車いすを使って活動したりすることは、一人ひとりの違いを理解する上で有効であったと考えられる。

昨年度の成果と課題を踏まえ取り組んだ本研究は、全ての生徒が一人ひとりの違いを大切にすることといった「共生」の態度を育み、車いすを使用する生徒と他の生徒が、障がいの有無にかかわらず一緒に活動することができる体育授業を実践することができたと考えられる。また、授業実践を通して、生徒だけでなく、障がいの有無にかかわらず共に学ぶことができる授業づくりに対する教師の理解がより深まった様子も見られたことから、今後の授業改善につながる実践になったと考える。

物の見え方や身体操作など、障がいの特性や症状によって生じる困難さは、一人ひとり異なることから、教師は生徒の個別の状況に応じた指導や支援の工夫を検討する必要がある。併せて、障がいの有無にかかわらず共に学ぶ体育授業を実現するためには、教師だけでなく、生徒の理解も重要である。「共生」の態度を育む体育授業の実践及び推進に目指し、引き続き研究していきたい。

4 章 研究のまとめ

今年度は、実践研究校 2 校とも「球技 ネット型（テニス）」で授業研究に取り組んだ。ネットを挟んで行う領域においても、「共生」や「協力」の態度を育む指導を重視し、「アダプテッド」や、「インクルージョン・スペクトラム・モデル」の理論を踏まえた活動を取り入れたことで、生徒は一人ひとりの違いを大切に、互いに助け合い教え合いながら、誰もが運動を楽しむことができる体育授業を実現することができたと考える。

本研究では 3 年間を通して、現行の学習指導要領改訂の要点である「共生」の視点を踏まえ、体力や技能の程度、性別や障がいの有無等に関わらず、すべての生徒が「共に学び共に育つ体育授業の実現」を目指し、実践研究校 2 校と共に調査研究に取り組んできた。

この研究を通して、教師は生徒のつまずきや体育授業における生徒の困難さに対して、「何ができるか」、「どのように工夫したらできるか」を考え続けること、また研究の理論として参考としてきた「アダプテッド」や「インクルージョン・スペクトラム・モデル」の考え方などを踏まえ、障がいの有無にかかわらず共に学ぶことができる授業づくりに対する理解を深めていくことが、重要であると考えた。

現行の学習指導要領において、高等学校は小学校からの 12 年間を見通した体系化の最終段階となることから、中学校までの学習の成果を踏まえ、卒業後も運動やスポーツに多様な形で関わることをできるようすることが求められており、義務教育段階の学習内容の確実な定着に向けた指導や支援の充実が求められている。

今回の取組を通して、「アダプテッド」の視点を踏まえた授業づくりに対する理解が広がってきていると感じている。県内の高等学校だけでなく、小学校、中学校段階においても、このような実践が行われることを期待したい。

本年度までの成果が多くの学校現場で実践できるよう広く発信していくと同時に、引き続きすべての生徒が「共に学び共に育つ体育授業の実現」を目指し、調査研究を進めていきたい。

[引用・参考文献]

神奈川県立総合教育センター 2020 「支援を必要とする児童・生徒の教育のために」

https://www.pen-kanagawa.ed.jp/eductr/kenkyu/documents/202103_

shienwohituyoutosuru.pdf (2024 年 3 月 6 日取得)

松原豊 2021 「インクルーシブ体育について（解説）」独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 『小・中学校における肢体不自由のある児童生徒への指導及び支援のための地域資源を活用した授業改善に関する研究』 p. 75

【調査研究アドバイザー（職名は令和7年3月現在）】

内田 匡輔 東海大学 体育学部 体育学科 教授
綿引 清勝 東海大学 児童教育学部 児童教育学科 特任講師
村井 梨沙子 東海大学 体育学部 体育学科 特任講師

【実践研究校（令和6年度）】

神奈川県立足柄高等学校
神奈川県立座間総合高等学校

【調査研究チーム（令和6年度作成担当）】

神奈川県立総合教育センター
体育指導センター指導研究課
研修指導班

授業研究班

教育事業部教育人材育成課キャリア推進班

教育支援部学校教育支援課インクルーシブ教育支援班
学校支援班

斎藤 祐介
田中 春彦
野崎 敏秀
五島 麻美
川口 弘幸
加賀谷 光
海野 健介
外赤 広太
水野 昌享
西塚 祐一
中嶋 洋介
落合 浩一
平山 有紀子
小島 佐由美
西川 真広
山田 寛

【調査研究協力関係課（令和6年度）】

神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課
インクルーシブ教育推進課

令和6年3月 神奈川県立総合教育センター
電話 0466-81-2572（体育指導センター指導研究課）